農業土木工事施工管理の統一事項

平成30年4月
（令和3年4月改定）
宮崎県農政水産部

目　　次

農業土木工事の留意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第１編　総則編

１．工事請負契約から工事完成までの流れ
２．主任（監理）技術者等
３．施工体制
４．ＣＯＲＩＮＳへの登録
５．工事成績評定

県土整備部
土木工事施工管理の
統一事項　適用

６．工事の標示（工事看板）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1-6-1

第２編　施工管理

１．一般事項
２．施工計画書
３．設計図書の照査・工事測量の成果（着工前測量）
４．工事打合簿
５．協議資料
６．工程管理
７．工事履行報告

県土整備部
土木工事施工管理の
統一事項　適用

８．品質・出来形・写真管理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-8-1
９．段階確認等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-9-1

１０．材料関係
１１．安全管理
１２．再生資源

県土整備部
土木工事施工管理の
統一事項　適用

１３．様式集　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13-1

農業土木工事施工管理の統一事項

農業土木工事の留意事項

１．適用

農業土木工事施工管理の統一事項は、宮崎県農政水産部が発注する工事（以下、「工事」という。）に係る事項について定めたものである。なお、県土整備部土木工事施工管理の統一事項を適用するものについては以下に示すものとし、これに記載なき事項について、農業土木工事施工管理の統一事項として各編に定めるものとする。なお、農業土木工事施工管理の統一事項の各項の番号は土木工事施工管理の統一事項の番号に合わせるものとする。

＜県土整備部土木工事施工管理の統一事項を適用するもの＞

－第１編　総則編－

１．　工事請負契約から工事完成までの流れ
２．　主任（監理）技術者等
３．　施工体制
４．　CORINS への登録
５．　工事成績評定

－第２編　施工管理編－

１．　一般事項
２．　施工計画書
３．　設計図書の照査・工事測量の成果（着工前測量）
４．　工事打合簿
５．　協議資料
６．　工程管理
７．　工事履行報告
８．　品質・出来形・写真管理

※8.3 写真管理については農業土木工事の施工管理の統一事項を適用

第１編　総 則 編

６．工事の標示（工事看板）

工事を行う場合は、必要な工事標識を設置するほか、原則として次に示す要領に基づき標示する標示板を工事区間の起終点に設置するものとする。

土木工事共通仕様書第１編１－１－２３第３項

「受注者は、施工に先立ち工事現場またはその周辺の一般通行人等が見易い場所に、工事名、工期、発注者名及び受注者名を記載した標示板を設置し、工事完成後は速やかに標示板を撤去しなければならない。ただし、標示板の設置が困難な場合は、監督員の承諾を得て省略することができるものとする。」

工事現場における標示板の標示要領

平成１６年１０月１日

農政水産部農村計画課

（趣旨）

第１条　この要領は、宮崎県農政水産部が発注する農業土木工事の工事現場における標示板（以下「工事標示板」という。）の標示内容の簡素化及び統一化を図り、わかりやすい標示施設にするとともに、工事標示板に工事に関する情報の問合わせ先を表示することにより、県民への公共工事に関する積極的な情報提供を行い、公共工事に対する理解の浸透をより図るため、必要な事項を定めるものとする。

（標示内容等）

第２条　工事標示板の標示内容については、次の各号に掲げるとおりとする。

一　工事の種別

主たる工事種別を記載するものとする。

二　工事の名称

事業名（略称：別表１参照）、地区名及び工区名を記載するものとする。

三　工事の場所

○○郡、大字及び○○番地は除き、記載するものとする。

四　工事の期間

原則として、契約書に記載の工期を記載するものとする。

ただし、工場製作がある場合など、現場での工事期間が契約工期と大きく異なる場合は、実際に現場で工事を行う期間を記入するものとする。

五　工事の施工者

商号又は名称、電話番号（市外局番を含む。以下同じ。）を記載するものとする。

六　問合せ先

工事に関する情報の問合せ先を標示するものとする。

七　工事の発注者

事務所名、担当名及び電話番号を記載するものとする。

2　工事標示板に掲載する絵等は次の内容とする。ただし、デザイン等具体的な掲載に当たっては、建設工事のイメージアップにつながり、いやしくも工事標示板としての目的を失することのないよう留意するものとする。

ア　地域の名所、特産品、名物、風景等

イ　県の主要施策に関する内容

ウ　県が主催する行事等に関する内容

（その他）

第３条　標示板や文字等の大きさについては、絵等を掲載する場合は標準記載例１、それ以外は標準記載例２を参考とする。ただし、これにより難い場合には監督員との協議により変更できるものとする。

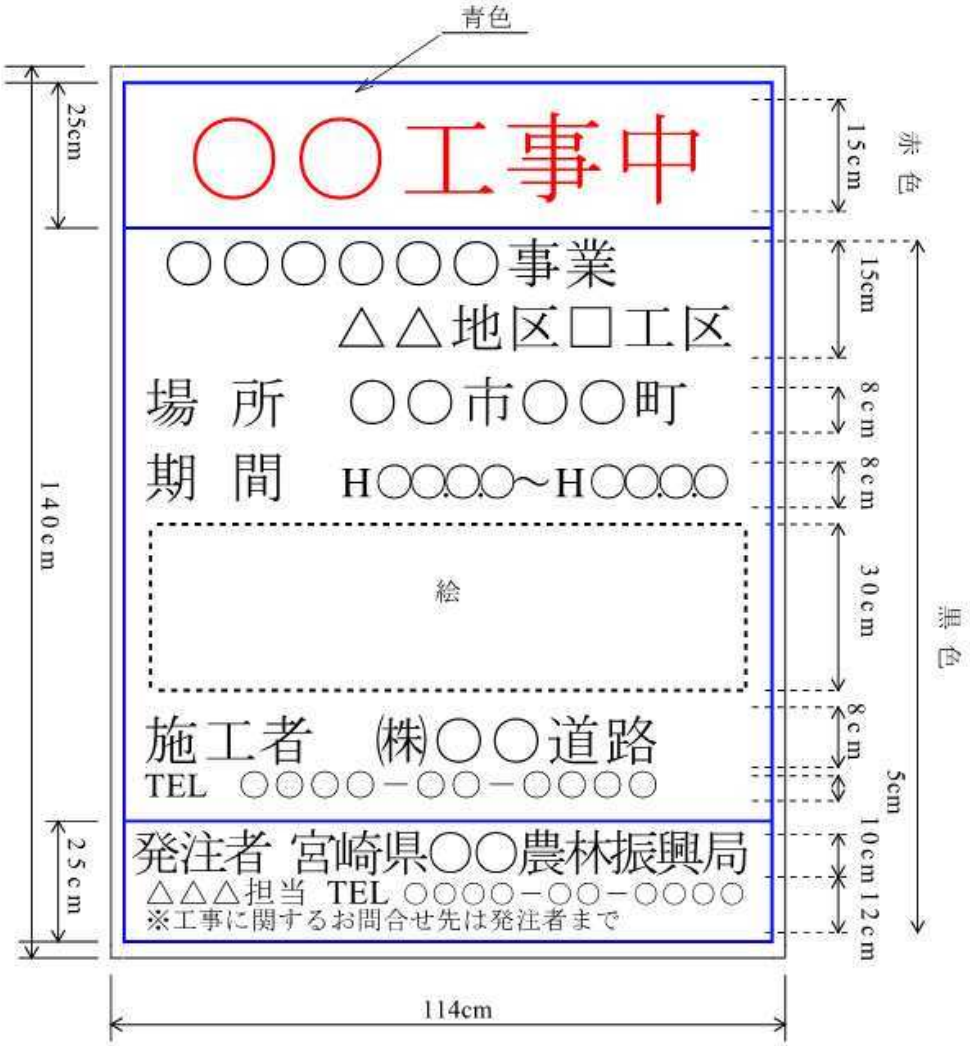
附　則

この要領は、平成１６年１０月１日から施行する。

この要領は、平成２８年１月１日から施行する。

標準記載例１

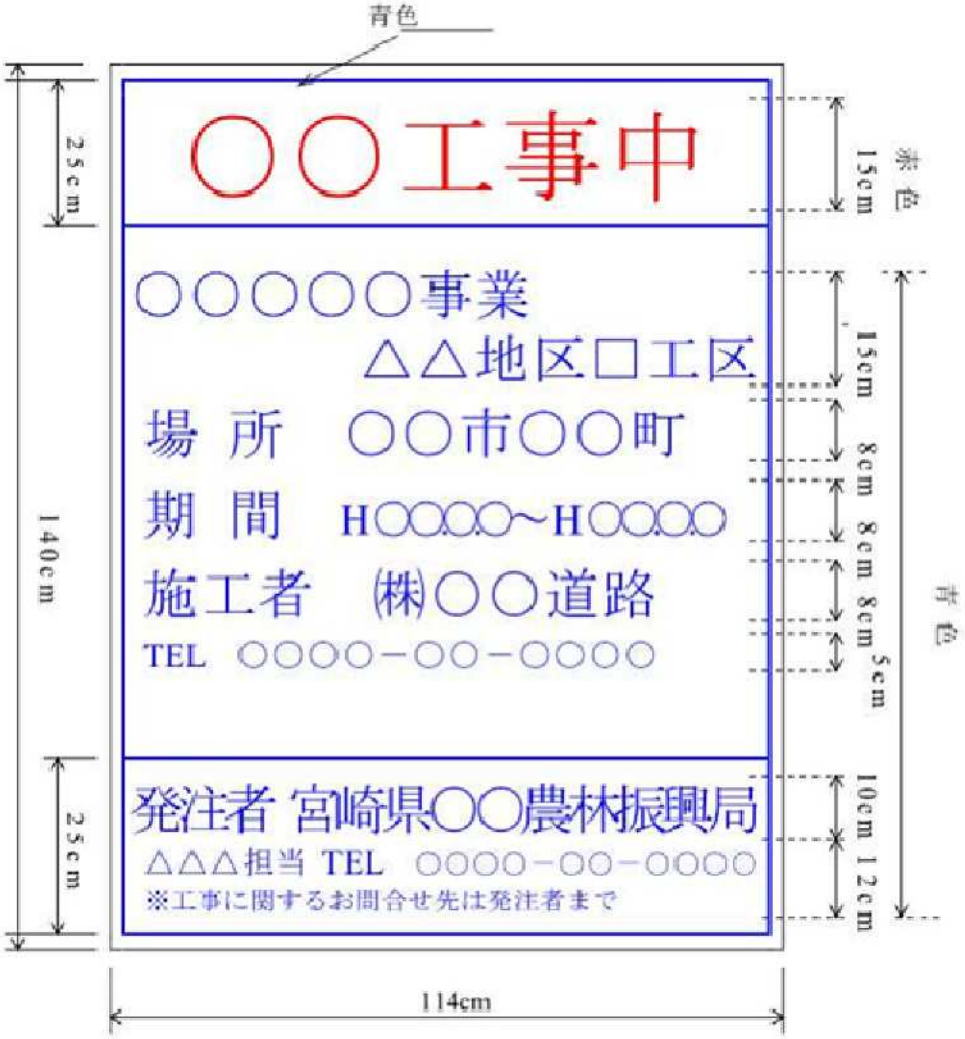
○ 工事標示板（絵を入れる場合）



（場所の記載例）× 児湯郡高鍋町大字上江２－１０ → ○ 高鍋町上江
※ 寸法については参考値とし、文字数等により適宜調整するものとする。

標準記載例２

○ 工事標示板（絵を入れない場合）



（場所の記載例） × 児湯郡高鍋町大字上江２－１０ → ○ 高鍋町上江
※ 寸法については参考値とし、文字数等により適宜調整するものとする。

別表1

事業名	表示する事業名
経営体育成基盤整備事業	経営体育成基盤整備事業
畑地帯総合整備事業(担手育成)	畑地帯総合整備事業
畑地帯総合整備事業(担手支援)	畑地帯総合整備事業
耕作放棄地整備事業	耕作放棄地整備事業
ため池等整備事業(河川応急)	ため池等整備事業
ため池等整備事業(危険ため池)	ため池等整備事業
ため池等整備事業(土砂崩壊)	ため池等整備事業
ため池等整備事業(用排水施設)	ため池等整備事業
農村災害対策整備事業	農村災害対策整備事業
農地保全整備事業(シラス)	農地保全整備事業
農地保全整備事業(急傾斜)	農地保全整備事業
農地保全整備事業(特殊土壌)	農地保全整備事業
湛水防除事業	湛水防除事業
防災ダム事業	防災ダム事業
海岸維持修繕事業	海岸維持修繕事業
海岸保全施設整備事業	海岸保全施設整備事業
広域農道整備事業	広域農道整備事業
広域農道整備事業(道交付金)	広域農道整備事業
基幹農道整備事業	基幹農道整備事業
中山間地域総合整備事業	中山間地域総合整備事業
地域用水環境整備事業	地域用水環境整備事業
基幹水利施設ストマネ事業	基幹水利施設ストマネ事業
土地改良財産補修事業	土地改良財産補修事業

※表にない事業名については監督員と協議すること

第２編　施工管理編

８．品質・出来形・写真管理

下記項目（8.1、8.2）については、土木工事施工管理の統一事項を適用するものとする。8.3 写真管理については本統一事項に定める。

8.1 品質管理
8.2 出来形管理

県土整備部
土木工事施工管理の統一事項　適用

＜農政独自＞
農業土木工事施工管理の統一事項 13.様式集（P2-13-5）の出来形数量総括表を作成、保管し、工事完成時までに監督員へ**提出**しなければならない。ただし、それ以外で監督員からの請求があった場合は直ちに**提示**しなければならない。

8.3 写真管理

下記項目（8.3.1、8.3.2）については、土木工事施工管理の統一事項を適用するものとする。8.3.3 写真管理上での留意点については本統一事項に定める。

8.3.1 目的
8.3.2 基準等

県土整備部
土木工事施工管理の統一事項　適用

8.3.3 写真管理上での留意点

「写真管理基準」にある留意事項等のほか、特に留意すべき点は、下記のとおりである。

（１）着手前及び完成写真

①工事区間全体の状況が判るように撮影すること。全景が、同一画面に入らない場合は、つなぎ（パノラマ）写真又は追い写真とする。

②起終点位置や重要な中間点にはポール等を立てること。（丁張り設置後に撮影すると、計画も判然として効果的である。）

③着手前と完成写真は同一構図となるよう撮影する。

（２）施工状況写真

①各施工段階における施工機械等の稼働状況、人力による施工状況、工事材料の使用状況、規定された工法に対する施工状況、部分的な段階完了状況写真を撮影するものであるが、その撮影の目的を十分理解し、目的に対応する写真撮影を行わなければならない。

②指定仮設物及び主要な仮設物並びに補修状況を撮影する。なお、火薬庫、電気設備については、当該施設周辺の地勢状況が判るように撮影する。

③工事現場においては設計図書と現地との不一致等の問題が種々発生するが、その対応策は設計変更の対象となる可能性も高いので、必要に応じて原因・状況・対策に即した撮影内容を監督員と協議して決定する。

④できるだけ測点、周囲の地形・地物を背景に入れて、撮影目的物の位置を明瞭にするよう工夫する。また、やむをえず細部撮影をする場合は、位置が不明確になるため、遠・近の組写真となるよう工夫する。

＜農政独自＞

⑤管工事において工事完成後に明視できない箇所（不可視部分）の状況を確認する観点から、布設されたすべての管について布設完了時の状況がわかる写真を撮影するものとする。なお、撮影に際しては、離脱防止金具、異形管及び弁類等の設置箇所や個数がわかるように撮影するものとするが、管番号を記した接合部の接写は不要とする。

⑥複合配管を行う場合（ダブル、トリプル配管等）は、設計図書に示す管同士の最小間隔を確保したことがわかる写真を撮影するものとする。

（３）使用材料写真

①受注者が他から購入して使用する工事材料で、使用後において形状・寸法・数量が確認できないものについては現場搬入時に検収写真を撮影する。

②ＪＩＳマーク製品については、規格及びＪＩＳマーク等の表示を撮影するのみでよい。

＜農政独自＞

③日本水道協会規格（ＪＷＷＡ）の水道用ゴム輪形硬質ポリ塩化ビニル管（ＨＩＶＰ，ＶＰ）、水道用ゴム輪形硬質塩化ビニル管継手（ＨＩＶＰ，ＶＰ）については、ＪＩＳ製品の検収方法と同様とする。

④ＪＩＳマーク製品等以外の管資材についても、品質証明書等と現品の整合が確認できるものについては、形状・寸法確認の写真撮影は不要とするが、規格や表示マークの写真撮影は行う。

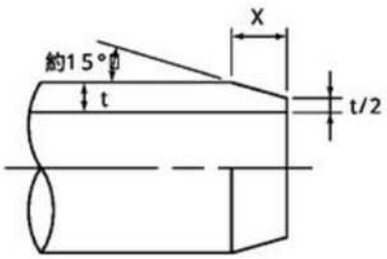
⑤切管の検収写真は、面取り等の必要な処理を行った後、すべての切管で撮影することとするが、硬質ポリ塩化ビニル管の切管は管種・管径・切管タイプ毎に面取り後の写真を１枚ずつ撮影することとする。ただし、標線位置の管理記録はすべての切管で行うことする。

（切管管理の留意点）

○ＴＳ：使用材料メーカーが示す定尺管の面取り寸法［糸面取り］

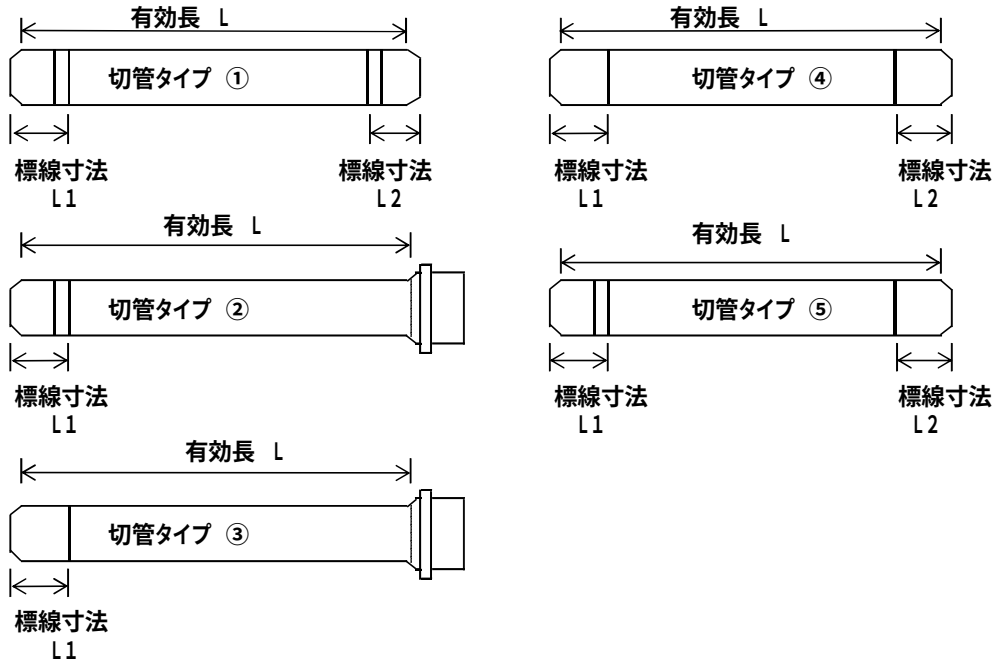
○ＲＲ：使用材料メーカーが示すＸ寸法およびｔ／２寸法（１５°）

○ＴＳ、ＲＲの有効長の位置に注意すること。



＜標線位置の管理記録作成例＞

切管　管理表



工事名								路線名		
写真	切管番号	管種	管径	切管タイプ	標線寸法・面取					
					有効長 L	標線寸法 L1	面取	標線寸法 L2	面取	備考
	記入例									
	8	VH(RR)	φ100	①	2090	179mm	○	179mm	○	ー

※切管の写真管理は、管種・管径・切管タイプ毎に面取り後の写真を１枚ずつ撮影することとする。
面取の欄は、「○」「ー」を記入する。
写真の欄には、撮影記録した管に「○」を記入する。

（４）品質管理写真

品質管理の試験又は測定の目的を十分理解し、目的に対応する写真撮影を行わなければならない。

（５）出来形管理写真

①明視できない箇所（不可視部分）の出来形（高）寸法を確認（証明）するための写真撮影であるので、被写体の映像及び目盛を明確に撮影しなけらばならない。なお、不可視部分の定義は次のとおりとする。

・破壊しないと容易に確認又は測定できない構造。（例：砕石基礎、コンクリート基礎、鉄筋、下層路盤等）

・工事途中の工種の終了時には明視できても、全工事完成後又は次期発注工事で不可視となる構造。（例：高盛土が施工される小口径の管梁寸法、盛土等他工種の施工により不可視となる構造物の背面寸法、次期舗装工事が施工される場合の下層路盤施工幅寸法等）

・梯子等昇降器具又は渡川器材等の仮設物を使用しないと容易に確認又は測定できない構造（例：橋台、橋脚、擁壁、根固・水制工）

・その他構造等の特殊性により不可視となる部分の寸法。

②出来形写真にはその寸法が確認できる添尺（箱尺、巻尺、リボンテープ、ノギス等）を使用する。また、カメラアングルが悪いと正確な寸法が撮影されないので、測定尺とカメラの位置が正面又は水平になるように留意する。

（６）安全管理写真

標識等の設置状況及び交通誘導員等の配置状況写真は、万一事故が発生した場合は、原因調査資料及び安全管理状況の証明資料ともなるので、設置又は配置状況が変わればその都度撮影を行っておく。又、必要に応じて夜間撮影も行っておく。

（７）その他（公害、環境、補償等）

必要に応じて、事前調査写真を撮影しておく。

（８）写真編集の不可

電子媒体に記録された工事写真（以下「デジタル写真」という。）については、写真編集等写真の信憑性を考慮し、いかなる編集（明るさの補正や回転等）も行ってはならない。

（９）仮設備写真

掲示物（施工体系図、建設業許可票等）については、全景写真のみで個別のアップ写真の提出は不要。

（10）施工写真（産業廃棄物の処理状況）

産業廃棄物の処理に関する施工状況写真については、積込・運搬・搬入・処理状況の判る写真を撮影する。（撮影頻度は、廃棄物の種類毎に１サイクル）

なお、搬出時期、搬出先が変わる場合には、その都度撮影する。

（11）品質・出来形確認写真

黒板の数量（設計値、実測値等）と施工管理図等の数量が確認できれば、写真帳の添え書きに設計値、実測値等の数値を記入する必要はない。黒板の数量（設計値、実測値等）と施工管理図等の数量が確認できれば、写真帳の添え書きに設計値、実測値等の数値を記入する必要はない。

（12）工事検査写真

工事検査写真は、必要最小限の枚数とする。また、黒板に設計寸法、実測寸法等を記入する

必要はない。

（13）段階確認・立会写真

段階確認・立会写真は、段階確認書等に添付しているため、工事写真での提出は不要。

９．段階確認等

9.1 材料確認書については、土木工事施工管理の統一事項を適用するものとする。9.2 材料確認・立会事項については、下記項目（9.2.1～9.2.4）について土木工事施工管理の統一事項を適用するものとするが、9.2.5 段階確認一覧については本統一事項に定める。

9.1 材料確認書
9.2 段階確認・立会事項
　9.2.1 目的
　9.2.2 実施上の留意点
　9.2.3 実施要領（段階確認）
　9.2.4 実施要領（現地調査・立会）

県土整備部
土木工事施工管理の統一事項　適用

9.2.5 段階確認一覧

段 階 確 認 一 覧（農政水産部）

一般：一般監督
重点：重点監督
1／5

種　　別	細　　別	確認時期	確認項目	確認の程度
指定仮設工		設置完了時	使用材料、延長、幅、長さ、高さ、深さ、間隔等	一般：１回／１工事 重点：１回／１工事
土工		施工完了時	基準高、法長、幅	一般：１回／５００ｍ 重点：１回／２５０ｍ
掘削工		土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	一般：１回／変化毎 重点：１回／変化毎
基礎工	栗石 ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝ 均しｺﾝｸﾘｰﾄ	施工完了時	基準高、延長、厚さ、幅	一般：１回／５００ｍ 重点：１回／２５０ｍ
	ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎	施工完了時	基準高、延長、高さ、幅	一般：１回／２００ｍ 重点：１回／１００ｍ
道路工	路床	ﾌﾟﾙｰﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ実施時	ﾌﾟﾙｰﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ実施状況	一般：１回／１工事 重点：１回／１工事
舗装工	路盤	ﾌﾟﾙｰﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ実施時	ﾌﾟﾙｰﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ実施状況	一般：１回／１工事 重点：１回／１工事
舗装工	下層路盤 上層路盤	施工完了時	基準高、延長、厚さ、幅	一般：１回／５００ｍ 重点：１回／２５０ｍ
表層安定処理工	表層混合処理 路床安定処理 サンドマット	処理完了時	使用材料、延長、基準高、幅、施工厚	一般：１回／１工事 重点：１回／１００ｍ
	置換	掘削完了時	使用材料、延長、幅、施工厚	
	サンドマット	処理完了時		
ﾊﾞｰﾁｶﾙﾄﾞﾚｰﾝ工	ｻﾝﾄﾞﾄﾞﾚｰﾝ 袋詰式ｻﾝﾄﾞﾄﾞﾚｰﾝ ﾍﾟｰﾊﾟｰﾄﾞﾚｰﾝ	施工時	使用材料、打込み長さ	一般：１回／２００本 重点：１回／１００本
		施工完了時	施工位置、杭径	
締固め改良工	ｻﾝﾄﾞｺﾝﾊﾟｸｼｮﾝﾊﾟｲﾙ	施工時	使用材料、打込み長さ	一般：１回／２００本 重点：１回／１００本
		施工完了時	施工位置、杭径、基準高	
固結工	粉体噴射攪拌 高圧噴射攪拌 ｾﾒﾝﾄﾐﾙｸ攪拌	施工時	使用材料、深度	一般：１回／２００本 重点：１回／１００本
		施工完了時	基準高、位置・間隔、杭径	
	薬液注入	施工時	使用材料、深度、注入量	一般：１回／２０本 重点：１回／１０本
矢板工 （任意仮設を除く）	鋼矢板	打込み時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板＋ 一般：１回／２００本 重点：１回／１００本
		打込み完了時	基準高、変位	
	鋼管矢板	打込み時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板＋ 一般：１回／１００本 重点：１回／５０本
		打込み完了時	基準高、変位	
既製杭工	既製ｺﾝｸﾘｰﾄ杭 鋼管杭 Ｈ鋼杭	打込み時	使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	試験杭＋ 一般：１回／１０本 重点：１回／　５本
		打込み完了時（打込み杭）	基準高、偏心量	
		掘削完了時（中堀杭）	掘削長さ、杭の先端地質	
		施工完了時（中堀杭）	基準高、偏心量	
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	一般：１回／１０本 重点：１回／　５本

種　　別	細　　別	確認時期	確認項目	確認の程度
現場打杭工	ﾘﾊﾞｰｽ杭 ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ杭 ｱｰｽﾄﾞﾘﾙ杭 大口径杭	掘削完了時	支持地盤、掘削長さ	試験杭＋ 一般：１回／１０本 重点：１回／　５本
		施工完了時	基準高、偏心量、杭径	
		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：１回／１ロット 重点：１回／１ロット
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	一般：１回／１０本 重点：１回／　５本
深礎杭		土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	一般：１回／変化時 重点：１回／変化時
		掘削完了時 施工完了時	掘削長さ、支持地盤	一般：１回／３本 重点：全本数
		施工完了時	基準高、偏心量、杭径	
		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：１回／１本 重点：１回／１本
		ｸﾞﾗｳﾄ注入時	使用材料、使用量	一般：１回／３本 重点：全本数
ｵｰﾌﾟﾝｹｰｿﾝ基礎工 ﾆｭｰﾏﾁｯｸｹｰｿﾝ基礎工		鉄沓据え付け完了時	使用材料、位置	一般：１回／１構造物 重点：１回／１構造物
		本体設置前（ｵｰﾌﾟﾝｹｰｿﾝ）	支持層	
		掘削完了時（ﾆｭｰﾏﾁｯｸｹｰｿﾝ）		
		土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	一般：１回／変化時 重点：１回／変化時
		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：１回／１ロット 重点：１回／１ロット
鋼管井筒基礎工		打込み時	使用材料、長さ、溶接部の適否、支持力	試験杭＋ 一般：１回／１０本 重点：１回／　５本
		打込み完了時	基準高、偏心量	
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	一般：１回／１０本 重点：１回／　５本
置換工（重要構造物）		掘削完了時	使用材料、延長、幅、深さ、地盤支持力	一般：１回／１構造物 重点：１回／１構造物
矢板工（仮設を除く）		掘削完了時	使用材料、延長、幅、深さ、地盤支持力	一般：１回／１構造物 重点：１回／１構造物
ﾎﾟｽﾄﾃﾝｼｮﾝT(I)桁製作工 ﾌﾟﾚﾋﾞｰﾑ桁製作工 ﾌﾟﾚｷｬｽﾄﾌﾞﾛｯｸ桁組立工 PCﾎﾛｰｽﾗﾌﾞ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押出し箱桁製作工 床版・横組工		ﾌﾟﾚｽﾄﾚｽ導入完了時 横締め作業完了時	設計図書との対比	一般：１０％程度／総ケーブル数 重点：２０％程度／総ケーブル数
		PC鋼線・鉄筋組立完了時（工場製作を除く）	使用材料、設計図書との対比	一般：１回／１ロット 重点：１回／１ロット

種　　別	細　　別	確認時期	確認項目	確認の程度
床版工		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：１回／１ロット 重点：１回／１ロット
鋼橋		仮組立完了時 （仮組立が省略となる場合を除く）	キャンバー、寸法等	一般：１回／１構造物 重点：１回／１構造物
築堤・護岸工		法線設置完了時	法線設置状況	一般：１回／１法線 重点：１回／１法線
		掘削完了時	支持地盤	一般：１回／変化毎 重点：１回／変化毎
	法覆工 （覆土施工がある場合）	覆土前	設計図書との対比 （不可視部分の出来形）	一般：１回／１法線 重点：１回／１法線
	基礎工 根固工	設置完了後	設計図書との対比 （不可視部分の出来形）	一般：１回／１工事 重点：１回／１工事
擁壁工	重力式 混合擁壁 ブロック積 Ｌ型擁壁	掘削完了時	支持地盤 （直接基礎）	一般：１回／１構造物 重点：１回／１構造物
		埋戻し前	設計図書との対比 （不可視部分の出来形）	
重要構造物 函渠工 （樋門・樋管を含む） 橋台工 橋脚工 橋脚ﾌｰﾁﾝｸﾞ工 ＲＣ擁壁工 頭首工 排水機場本体工		土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	一般：１回／変化毎 重点：１回／変化毎
		床堀掘削完了時	支持地盤 （直接基礎）	一般：１回／１構造物 重点：１回／１構造物
		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：１回／１ロット 重点：１回／１ロット
		埋戻前	設計図書との対比 （不可視部分の出来形）	一般：１回／１構造物 重点：１回／１構造物
橋台工 橋脚工		沓座の位置決定時	沓座の位置	一般：１回／１構造物 重点：１回／１構造物
ﾄﾝﾈﾙ工	掘削	土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	一般：１回／変化時 重点：１回／変化時
	支保工	支保工完了時 （支保工変更毎）	吹付ｺﾝｸﾘｰﾄ厚、ﾛｯｸﾎﾞﾙﾄ打込み本数及び長さ	一般：１回／１岩区分 重点：１回／支保工変更毎
	覆工	ｺﾝｸﾘｰﾄ打設前	巻立空間	一般：１回／６打設毎又は構造変化毎の頻度の多い方 重点：１回／３打設毎又は構造変化毎の頻度の多い方 ※地盤等級がＤ，Ｅのもの
	ｲﾝﾊﾞｰﾄ工	鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：１回／構造物の変化毎 重点：１回／構造物の変化
ｱﾝｶｰ工	基本試験	基本試験実施毎	変位量	一般：全数 重点：全数
	削孔工	施工時 施工完了時	据付け精度及び角度、削孔長	一般：５％／総本数 重点：１０％／総本数
	注入	ｸﾞﾗｳﾄ注入時	使用材料、フロー値、加圧力	一般：１回／打設毎 重点：１回／打設毎
法面工	法枠工	施工完了時	厚さ、法長、幅、間隔、延長	一般：１回／２００ｍ 重点：１回／１００ｍ
	吹付工 植生工	施工完了時	法長、延長、厚さ	一般：１回／１，０００m2 重点：１回／５００m2

種　　別	細　　別	確認時期	確認項目	確認の程度
ほ場整備工	表土扱い	施工完了時	厚さ	一般：３点／１ｈａ 重点：６点／１ｈａ
	田面整地 畑面整地	施工完了時	基準高、均平度、面勾配（指定）	一般：１筆（６点）／５筆 重点：１筆（６点）／２筆
	基盤整地	施工完了時	基準高、均平度、面勾配（指定）	一般：全筆 重点：全筆
	畦畔工	施工完了時	施工延長、高さ、幅	一般：１回／２０００ｍ 重点：１回／１０００ｍ
	道路工 （砂利道）	施工完了時	基準高、延長、厚さ、幅	一般：１回／５００ｍ 重点：１回／２５０ｍ
	暗渠排水 吸水渠工	掘削完了時 管布設完了時	布設深、間隔、被覆材幅、被覆材厚、延長	一般：１回／５００ｍ 重点：１回／２５０ｍ
	集水渠（支） 導水渠（幹）	施工完了時	施工延長、布設深	一般：１回／５００ｍ 重点：１回／２５０ｍ
ため池工	本体工	法線設置完了時	法線設置状況	一般：１回／１法線 重点：１回／１法線
	遮水ｼｰﾄ	掘削完了時 施工完了時	使用材料、長さ、幅、厚さ、基準高	一般：１回／１工事 重点：１回／１工事
	法面保護工	設置完了時	使用材料、長さ、幅、基準高	
	洪水吐 余水吐	土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	一般：１回／変化時 重点：１回／変化時
		床堀掘削完了時	支持地盤	一般：１回／１構造物 重点：１回／１構造物
		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：１回／１ロット 重点：１回／１ロット
		埋戻前	設計図書との対比 （不可視部分の出来形）	一般：１回／１構造物 重点：１回／１構造物
	浚渫工	施工完了時	基準高、延長、幅	一般：１回／１工事 重点：１回／１工事
ｺﾝｸﾘｰﾄ水路	現場打ち開水路 ﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ	土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	一般：１回／変化時 重点：１回／変化時
		床堀掘削完了時	支持地盤	一般：１回／１構造物 重点：１回／１構造物
		施工完了時	基準高、延長、高さ、幅	一般：１回／１００ｍ 重点：１回／５０ｍ
		施工完了時 （二次製品）	基準高、延長	一般：１回／５００ｍ 重点：１回／２５０ｍ
		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：１回／１ロット 重点：１回／１ロット
		埋戻前	設計図書との対比 （不可視部分の出来形）	一般：１回／１構造物 重点：１回／１構造物
	二次製品開水路	施工完了時	基準高、延長	一般：１回／５００ｍ 重点：１回／２５０ｍ
管水路工		土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	一般：１回／変化時 重点：１回／変化時
		床堀掘削完了時	基準高、幅	一般：１回／５００ｍ 重点：１回／２５０ｍ
		基礎砂等完了時	基準高、厚さ、幅	
		管接続施工中	ジョイント間隔	
		管布設完了時	基準高、厚さ、幅、中心線のズレ	
		施工完了後	漏水確認	一般：１回／路線

種　　別	細　　別	確認時期	確認項目	確認の程度
補強土壁工		土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	一般：１回／変化時 重点：１回／変化時
		床堀掘削完了時	支持地盤	一般：１回／１構造物 重点：１回／１構造物
		施工完了時	基準高、延長、高さ、幅、鉛直度	一般：１回／１００ｍ 重点：１回／５０ｍ
		敷設完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：１回／１工事 重点：１回／１工事
水路ﾄﾝﾈﾙ工	掘削	土（岩）質の変化した時	土（岩）質、変化位置	一般：１回／変化時 重点：１回／変化時
	支保工	支保工完了時 （支保工変更毎）	使用材料、中心線のズレ、基準高、間隔、幅	一般：１回／１岩区分 重点：１回／支保工変更毎
	覆工	ｺﾝｸﾘｰﾄ打設前	支保工の状態（基準高、中心線のズレ、間隔、幅）	一般：１回／１工事 重点：１回／１工事
		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：１回／１ロット 重点：１回／１ロット
	ｲﾝﾊﾞｰﾄ工	鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：１回／１ロット 重点：１回／１ロット
その他	監督員の指示した工種	適宜	適宜	適宜

注）・表中の「確認の程度」は、標準的な回数であり、実施にあたっては工事内容および施工状況等を勘案のうえ、適宜確認することとする。
・表中にない工種については、類似工種を参照し適宜確認すること。
・１ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は施工単位（目地）毎とする。

＜一般監督と重点監督＞

一般監督と重点監督の工事区分については宮崎県農政水産部請負工事等監督実施要領によるものとする。

なお、一般監督と重点監督との工事区分は、次のとおりである。

(1) 一般監督　重点監督以外の工事

(2) 重点監督　次に掲げる工事とする。

ア　主たる工種に新工法・新材料を採用した工事

(ｱ) 新技術導入推進農業農村整備事業

(ｲ) 標準歩掛のない新工法を用いた工事

イ　施工条件が厳しい工事

(ｱ) 鉄道又は現道上での橋梁工事

(ｲ) 圧気潜函工事

(ｳ) 掘削深さ５ｍ以上の土留工及び締切工を有する工事

(ｴ) 鉄道・国道等の近接工事

(ｵ) 軟弱地盤上での構造物

(ｶ) 現場打ちＰＣ橋

(ｷ) 橋脚（躯体工３０ｍ以上）

(ｸ) その他これらに類する工事

ウ　第三者に対する影響がある工事

(ｱ) 周辺地域等へ地盤変動等の影響が予想される掘削を伴う工事

(ｲ) 一般交通に供する路面覆工・仮橋等を有する工事

(ｳ) 河川堤防と同等の機能の仮締切を有する工事

(ｴ) その他これらに類する工事

エ　その他

(ｱ) 一般競争入札の工事

(ｲ) 低入札工事（調査基準価格対象工事）

(ｳ) 発注機関の長が必要と認めた工事

１３．様式集（参考）

様　式　集　目　次

１．　出来形管理、品質管理、工事写真帳 表紙 ---------- 2-13-2

２．　工程表様式
・ネットワーク方式 ---------- 2-13-3
・バーチャート方式 ---------- 2-13-4

３．　出来形管理様式
・出来形数量総括表 ---------- 2-13-5
・出来形概要図 ---------- 2-13-6
・出来形管理総括表 ----------2-13-7
・出来形管理図表 ---------- 2-13-8
・測定結果一覧表 ---------- 2-13-11
・石積（張）ブロック積（張）出来形管理図 ---------- 2-13-12
・暗渠工出来形管理表 ---------- 2-13-13
・整地工総括表 ---------- 2-13-14
・出来形管理図表（水田） ---------- 2-13-15
・出来形管理図表（畑） ---------- 2-13-16
・畦畔築立出来形管理表 ---------- 2-13-17
・縦断並びに断面形式出来形管理図（用排水路） ---------- 2-13-18
・道路工測定結果一覧表 ---------- 2-13-19
・用水路工測定結果一覧表 ---------- 2-13-20
・排水路工（Ｌ型等）測定結果一覧表 ---------- 2-13-21
・排水路工（ﾌﾘｭｰﾑ、柵渠等）測定結果一覧表 ---------- 2-13-22
・管水路ｼﾞｮｲﾝﾄ間隔測定結果一覧表 ---------- 2-13-23
・ゴム輪位置管理表 ---------- 2-13-24
・ＲＲ管差し込み位置及びゴム輪位置測定結果一覧表 ---------- 2-13-25
・ダクタイル鋳鉄管Ｋ型継手チェックシート ---------- 2-13-26
・ダクタイル鋳鉄管Ｔ型継手チェックシート ---------- 2-13-27
・暗渠排水工出来形管理表 ---------- 2-13-28
・杭打工事偏心出来形管理図 ---------- 2-13-29
・基礎打込成績表 ---------- 2-13-30
・杭打込記録表 ---------- 2-13-31
・杭出来形管理表 ---------- 2-13-32
・グラウト工測定結果一覧表 ---------- 2-13-33
・路面の平坦性試験表（標準偏差） ---------- 2-13-34
・プルーフローリング試験 ---------- 2-13-36
・矢板出来形管理表 ---------- 2-13-37

・ケーソン製作管理表 ---------- 2-13-38
・ケーソン据付管理表 ---------- 2-13-39
・トラック積載検収要領 ---------- 2-13-40
・コンクリート二次製品搬入時検査表 ---------- 2-13-41

４．　品質管理様式
・品質管理総括表 ---------- 2-13-42
・コンクリート圧縮・曲げ強度試験成果一覧表 ---------- 2-13-43
・コンクリート管理データシート ---------- 2-13-44
・Ｘ－Ｒ管理データシート（１） ---------- 2-13-45
・Ｘ－Ｒ管理図 ---------- 2-13-46
・Ｘ－Ｒｓ－Ｒｍ管理データシート（２） ---------- 2-13-47
・Ｘ－Ｒｓ－Ｒｍ管理図 ---------- 2-13-48
・コンクリート品質管理工程能力図 ---------- 2-13-49
・塩分測定結果一覧表 ---------- 2-13-50
・コンクリート中の塩分測定表 ---------- 2-13-51
・品質管理表 ---------- 2-13-52
・品質管理工程能力図 ---------- 2-13-53
・舗装工事品質管理総括表 ---------- 2-13-54
・アスファルト混合物の温度 ---------- 2-13-55
・初転圧温度 ---------- 2-13-62
・採取コアー試験総括表 ---------- 2-13-63
・現場密度試験総括表 ---------- 2-13-64
・レディーミクスコンクリート品質証明書 ---------- 2-13-65

総括監督員		主任監督員	

（ 表　題 ）

工 事 番 号　　平成　　年度　　第　　号

工　事　名

工 事 箇 所

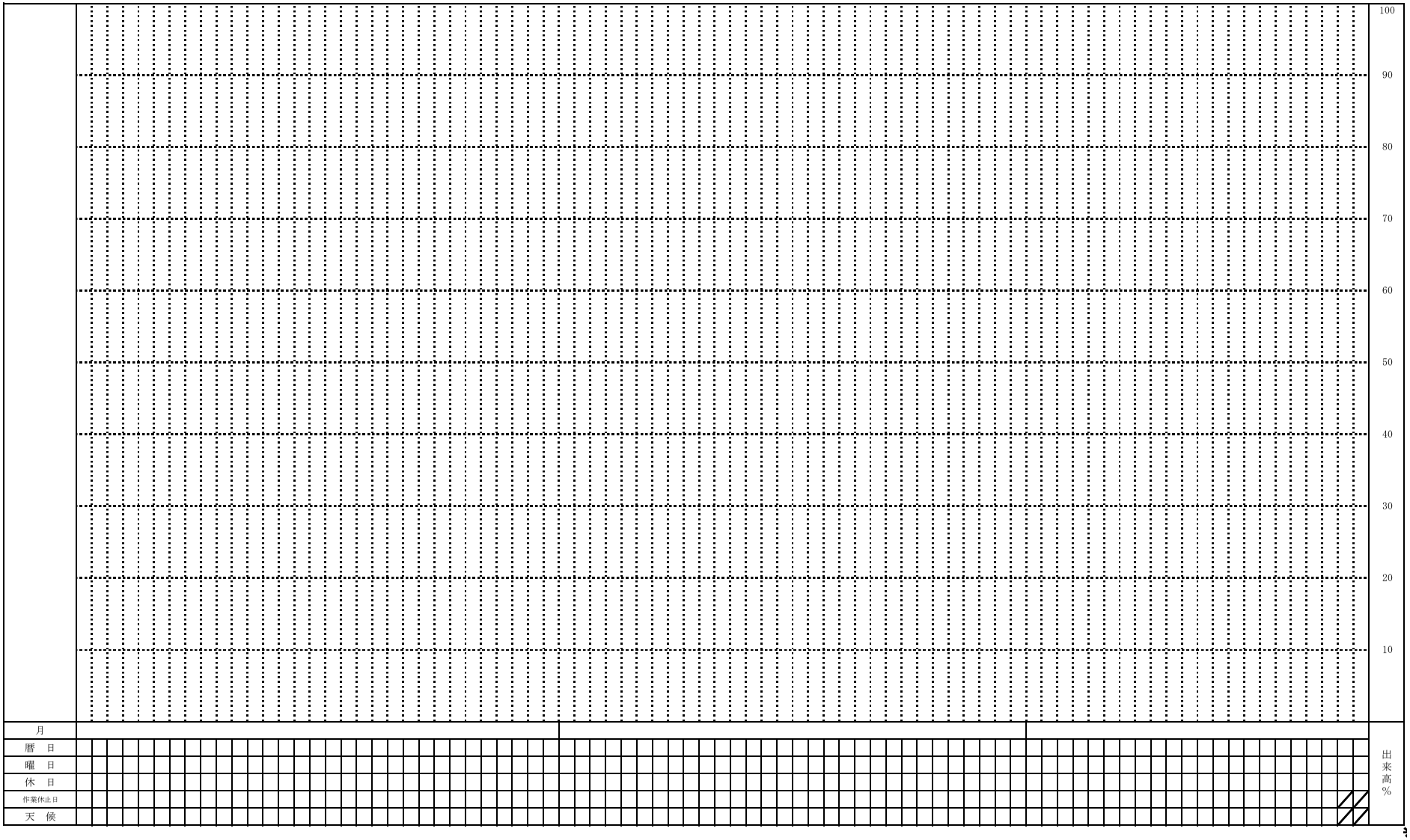
工　　期　　着工　　平成　　年　　月　　日

　　完成　　平成　　年　　月　　日

工事施工者

工事計画工程表

工期　自　平成　　年　　月　　日
　　至　平成　　年　　月　　日



2-13-3

工事計画工程表

工期	自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日	予定工程 実施工程	凡例 ○ 晴 ◎ くもり ● 雨

月		月	月	月	出来高%
暦 日					
曜 日					
休 日					
工 種	天候 / 数量				
					100
					90
					80
					70
					60
					50
					40
					30
					20
					10
					0

出来形数量総括表

工　事　名					管　理　者		
工　　種	名　　称	規　　格	単 位	契 約 数 量	出来形数量	増　　減	摘　　要

出　来　形　概　要　図

出来形管理総括表

工事名									管理者			
工種	種別	測定項目	測定基準	測定回数		規格値	社内基準値		測　定　値			適　用
				計画	実施	(mm)	%	(mm)	最大値	最小値	平均値	

出 来 形 管 理 図 表

工 種

種 別

測定者

測点			記　事	測点			記　事

出　来　形　管　理　図　表

工種＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　種別＿＿＿＿＿＿　測定者＿＿＿＿＿＿

測点	設計値A	実測値B	差C=B−A	設計値との差 (＋)	設計値との差 (−)

出　来　形　管　理　図　表

工　事　名	
請　負　者	
測　定　者	
工　　種	
種　　別	
測定項目	

＜略図＞

測　　点																
設　計　値																
実　測　値																
差																
設計値と測定値との差 単位（mm）																

地区名		工区		測　定　結　果　一　覧　表											測 定 者	
		規格値				規格値				規格値				規格値		説明略図
測点	設計値A	実測値B	C=B−A	測点	設計値A	実測値B	C=B−A	測点	設計値A	実測値B	C=B−A	測点	設計値A	実測値B	C=B−A	
		規格値				規格値				規格値				規格値		
測点	設計値A	実測値B	C=B−A	測点	設計値A	実測値B	C=B−A	測点	設計値A	実測値B	C=B−A	測点	設計値A	実測値B	C=B−A	

石積(張) ブロック積(張) 出来形管理図

展開図

測定者

施 工 箇 所　　号 箇 所 (No. ～ No.)

法長管理規格値　{ ・:3m未満-50
・:3m以上-100

測点又は任意番号	① 法 長 (・)			② 延 長			面 積	
	設 計 値	実 測 値	差	設 計 値	実 測 値	差	設 計 値	実 測 値

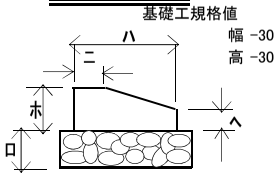
※面積の測定は、展開図で可

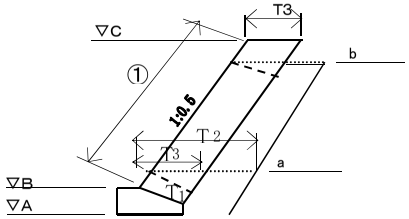
ブロック積断面幅

断面管理規格値　(石面より裏込コンクリートまで-50
裏込コンクリートより裏込材料まで-50

	設計			
	実測			
	設計			
	実測			
	設計			
	実測			
	設計			
	実測			
	設計			
	実測			

基礎断面図





基 準 高 測 定

基準高管理規格値　基礎±30　ﾌﾞﾛｯｸ±50

測点	区分	設計値	実測値	差 (+,−)
	▽A			
	▽B			
	▽C			
	▽A			
	▽B			
	▽C			
	▽A			
	▽B			
	▽C			

ブロック基礎断面

基礎長	型	型	型
実測			
設計			

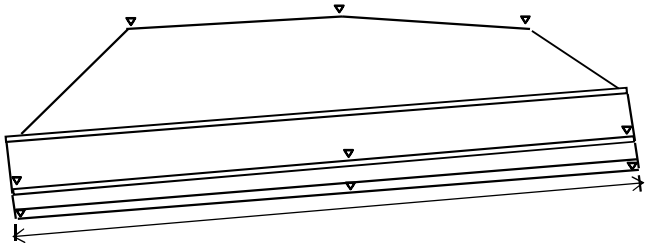
区分＼測点									
		設計	実測	設計	実測	設計	実測	設計	実測
コンクリート栗石等	ヘ								
	ホ								
	ニ								
	ハ								
	ロ								
	イ								

測定者	

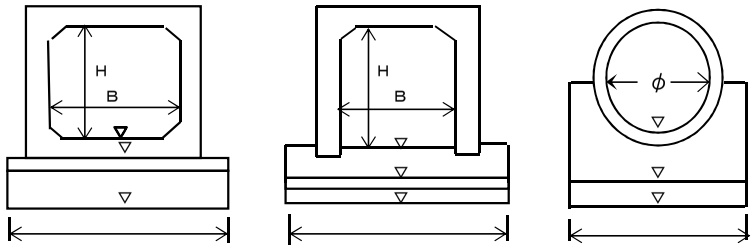
地区　　工区

暗渠工出来形管理表

側面図



正面図



設置場所		管種		管径	H×B φ	管長	実測値 設計値		差	

基準高 名称	管理規格値	上流部			中央部			下流部		
		設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
床堀高										
砂均コン又は栗石高										
水路底高										
道路高										

		延長			区分	管理規格値	上流部			中央部			下流部		
		設計値	実測値	差			設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
基礎栗石等					幅										
					厚										
均しコン					幅										
					厚										
コンクリート					幅										
					厚										
土羽長	上流				法長										
	下流														

設置場所		管種		管径	H×B φ	管長	実測値 設計値		差	

基準高 名称	管理規格値	上流部			中央部			下流部		
		設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
床堀高										
砂均コン又は栗石高										
水路底高										
道路高										

		延長			区分	管理規格値	上流部			中央部			下流部		
		設計値	実測値	差			設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
基礎栗石等					幅										
					厚										
均しコン					幅										
					厚										
コンクリート					幅										
					厚										
土羽長	上流				法長										
	下流														

地区　　工区　出 来 形 管 理 表

整 地 工 総 括 表

上段 ― 出来形
（下段 ― 計 画）

測定者

画区 No	耕区 No	耕区面積	左増減 (+、−)	① 基盤造成高	左増減 (+、−)	② 田面仕上高	左増減 (+、−)	②−① 表土厚	抜取厚	左の 個数	畦畔延長	左増減 (+、−)	摘要
	計												

地区　　工区　出来形管理図表

測定者＿＿＿＿＿＿＿＿印

耕区番号　　計画面積　　㎡

	記号	底辺	高さ	員数	面積
	計				

	名称	計画	実測	差土	備考
畦畔工					
排水施設					

配列	測定箇所	基盤高 計画	基盤高 ① 実測	基盤高 ＋ 差－	整地高 計画	整地高 ① 実測	整地高 ＋ 差 －	表土厚 計画	表土厚 ②-① 算式	表土厚 ＋ 差 －	表土厚 実測	表土厚 ＋ 差 －	高低差	基盤工（規格値±５０） 規格値の50%－－－ ①	80%－－－ ②	③	高低差	整地工（規格値±５０） 規格値の50%－－－ ①	80%－－－ ②	③
													+40				+40			
													+20				+20			
													0				0			
													−20				−20			
													−40				−40			
													+40				+40			
													+20				+20			
													0				0			
													−20				−20			
													−40				−40			
													+40				+40			
													+20				+20			
													0				0			
													−20				−20			
													−40				−40			
計													備考	B. M						
平均														I. H						

地区　　工区　出来形管理図表

測定者＿＿＿＿＿＿＿＿印

耕区番号		B, M		I, M	

配列		基盤高			整地高			表土厚				
		計画	① 実測	＋ 差一	計画	② 実測	＋ 差一	計画	②−① 算式	＋ 差一	実測	＋ 差一

基盤工　高さ　計画[1/　]

整地工　高さ　計画[1/　]

基盤工　[計画] [1/　]　高さ

整地工　[計画] [1/　]　高さ

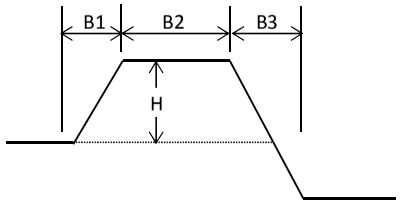
略図及び任意断面

名称	計画	実測	差±
面積			
標高			
深耕面積			
畦畔工			
排水施設			

記号	底辺	高さ	員数	面積
計				

地区　　耕区　畦畔築立出来形管理表

測定者

耕区番号	畦畔号型	延長		幅			高	測定場所	適　　要
		設計値	実測値	B_1 設計(　)	B_2 設計(　)	B_3 設計(　)	H 設計(　)		
									高さ(H)　規格値　：−50
									幅(B)　規格値　：−50
									延長　規格値　：100m以上 −0.2% 100m未満 −200
									

地区　　工区

排水路工

用水路工

路線面

縦断並びに断面形式出来形管理図

（標準設計の場合）

測定者

変更打合せ		
年月日	氏名	印

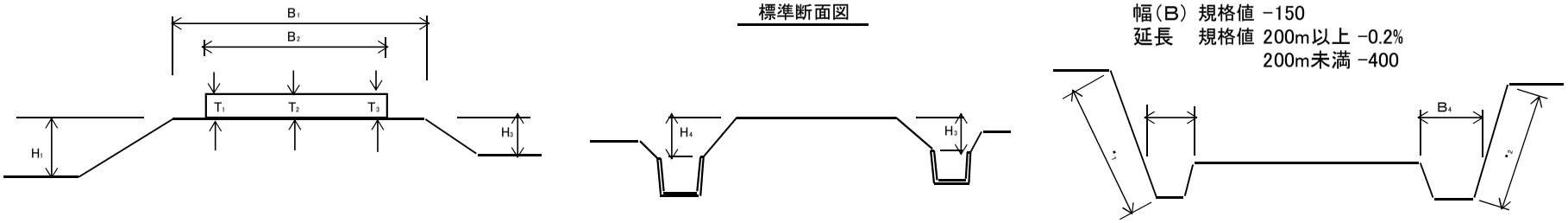
水路勾配		
標高	差（＋、－）	
	実測値	
	承認設計値	
追加距離		
測点		

測定者	

地区　　工区　道路工測定結果一覧表

厚さ　規格値 −45
幅(B)　規格値 −150
延長　規格値 200m以上 −0.2%
200m未満 −400

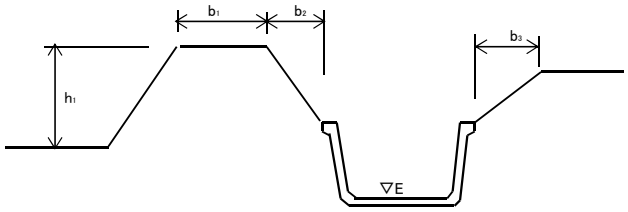
標準断面図



路線名称		測点	延長		左側					中央								右側				
			設計値	実測値	H1 ( )	H4 ( )	B3 ( )	▪1 ( )		B1 ( )	B2 ( )	T1 ( )	T2 ( )	T3 ( )	平均T ( )			H3 ( )	H5 ( )	B4 ( )	▪2 ( )	

測定者	

地区　　工区　用水路工測定結果一覧表



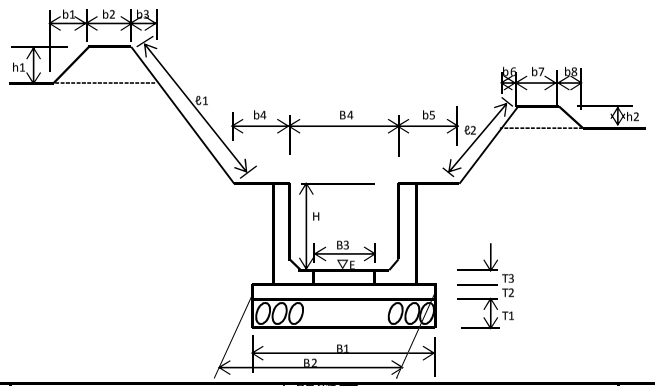
水路高　基準高　規格値　±30
水路延長　　規格値　-200

水路名称	材料名	測点	延長		▽E	h1	b1	b2	b3					
			設計値	実測値	(設計値)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)					

測定者	

地区　　工区

排水路工（L型等）測定結果一覧表



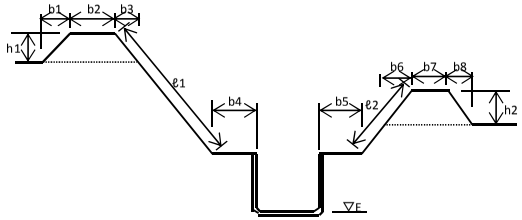
基準高	規格値	±30
幅及び高さ	規格値	−30
延長	規格値	−200

路線名称	材料名	測点	延長		左側						水路断面										右側					
			設計値	実測値	b1 (　)	b2 (　)	b3 (　)	h1 (　)	L1 (　)	b4 (　)	▽E (設計値)	B_1 (　)	T_1 (　)	B_2 (　)	T_2 (　)	T_3 (　)	B_3 (　)	B_4 (　)	H (　)	(　)	b5 (　)	L2 (　)	b6 (　)	b7 (　)	b8 (　)	h2 (　)
											(　)															
											(　)															
											(　)															
											(　)															
											(　)															
											(　)															
											(　)															
											(　)															
											(　)															
											(　)															
											(　)															
											(　)															
											(　)															
											(　)															
											(　)															
											(　)															
											(　)															

地区　　工区　排水路工（フリューム・柵渠等）測定結果一覧表

測定者	

基準高 規格値　±30
延長 規格値　−200



路線名称	材料名	測点	延長		左側						水路断面										右側					
			設計値	実測値	b1 ( )	b2 ( )	b3 ( )	h1 ( )	L1 ( )	b4 ( )	▽E (設計値)	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	b5 ( )	L2 ( )	b6 ( )	b7 ( )	b8 ( )	h2 ( )
											( )															
											( )															
											( )															
											( )															
											( )															
											( )															
											( )															
											( )															
											( )															
											( )															
											( )															
											( )															
											( )															
											( )															
											( )															
											( )															

測定者	

地区　　工区

管水路ジョイント間隔測定結果一覧表

水路名称	管種	管径	管番号	1本当たり長さ	管理規格値	ジョイント間隔							摘要
						標準値A	実測値					C−B−A	
							上	左	下	右	平均B		

ゴム輪位置管理表

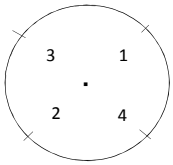
工事名

呼び名・製造方式　　測定者

管番号									
継手部清掃状況									
ゴム輪装着状況									
差し口部外面 受け口部内面 の平坦性									
ゴム輪位置の測定 y＝	1								
	2								
	3								
	4								
管理規格値 ＋　－									
判定									

柱）
1. 管理規格値は、接合時の値であり、4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
2. 接合時に管理規格値を超えた場合は、再度接合を行う。
3. ゴム輪位置の測定は、S形PC管のRO及びSL形継手に適用する。

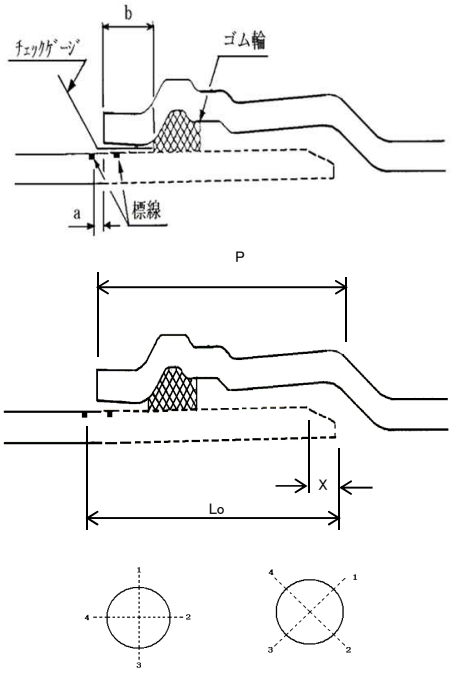
測定箇所



RR管差し込み位置及びゴム輪位置測定結果一覧表

No.	

工 区 名	平成　年度　県営　事業　地区　工区				
路 線 名		管 種 ・ 径		測定者	



測定箇所は、計測できる位置で、対象方向4箇所とする。

a寸法、b寸法、Lo寸法、X寸法基準値

呼び径	a寸法	b寸法	P寸法	Lo寸法	X寸法
50	～	±	±	±	
75	～	±	±	±	
100	～	±	±	±	
125	～	±	±	±	
150	～	±	±	±	
200	～	±	±	±	
250	～	±	±	±	
300	～	±	±	±	
350	～	±	±	±	
400	～	±	±	±	
450	～	±	±	±	
500	～	±	±	±	
600	～	±	±	±	

①a寸法は、基準値内に止まっていること。

②b 寸法が基準値を超えている場合は、再施工を行うこと

※製造メーカーにより、寸法、基準値が異なるので、必ずメーカーの基準書を添付すること・

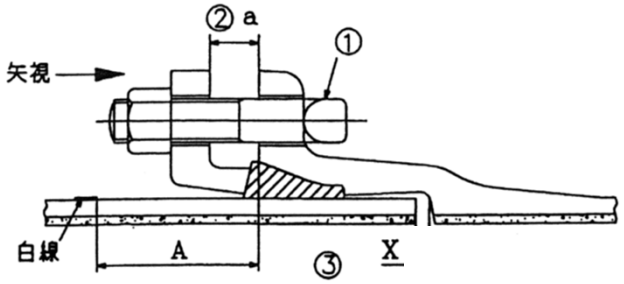
施　工　日												
継 手 箇 所 No												
管No												
略図												
清　掃	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良
滑 剤 塗 布	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良
ゴ ム 輪 確 認	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良	良・不良
受 口 有 効 寸 法 P											
標 線 寸 法 Lo											
a寸法 標線 ～ 受口端面 1											
2											
3											
4											
b寸法 受口端面 ～ ゴム輪 1											
2											
3											
4											
判　定	合・否	合・否	合・否	合・否	合・否	合・否	合・否	合・否	合・否	合・否	合・否

備　考

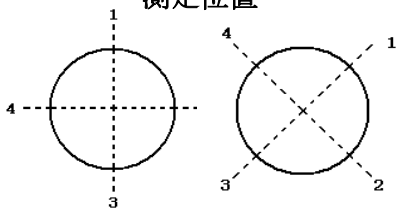
No.	

ダクタイル鋳鉄管K形継手チェックシート

工事名	平成　年度 県営　　事業　　地区　　工区	測定者	



測定位置



測定箇所は、計測できる位置で、
対象方向4箇所とする。

④ゴム輪の出入り状態

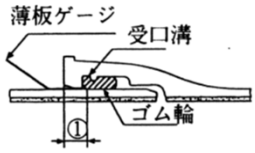
施工日		／	／	／	／	／	／	／
測点								
路線名 管種・管径								
略図								
継手No.								
清掃								
滑剤								
①ボルト	数							
	トルク (N・m)							
②押輪－受口端面間隔 (a)	規格値							
	1							
	2							
	3							
	4							
③受口端面－白線の間隔 (A)	規格値							
	1							
	2							
	3							
	4							
④ゴム輪の出入状態	1							
	2							
	3							
	4							
判定								

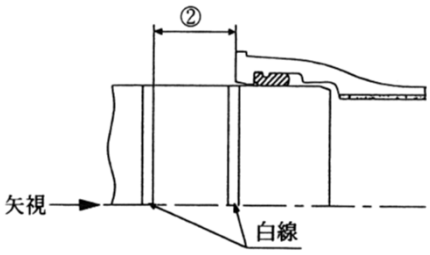
判定基準
②押輪－受口端面の間隔(a)　：最大値－最小値≦5mm(同一円周上)
③受口端面－白線の間隔(A)　：呼び径 75～250mmA≦ 95mm
呼び径300～600mmA≦107mm
④ゴム輪の出入状態　：同一円周上にA,CまたはA,B,Cが同時に存在しないこと。

No.	

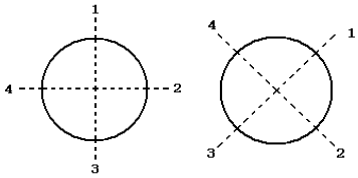
ダクタイル鋳鉄管T形継手チェックシート

工事名	平成　年度 県営　　事業　　地区　　工区	測定者	





測定位置



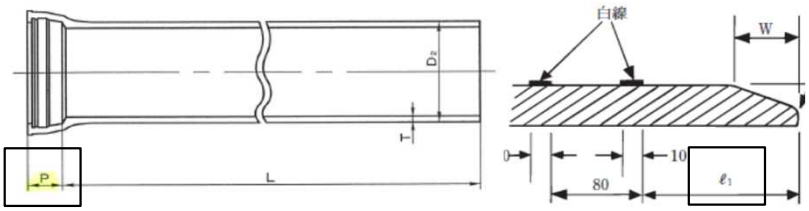
測定箇所は、計測できる位置で、
対象方向4箇所とする。

施工日		／	／	／	／	／	／	／
測点								
路線名 管種・管径								
略図								
継手No.								
清掃								
滑剤								
受口溝の確認								
①受口端面－ゴム輪の間隔	1							
	2							
	3							
	4							
②受口端面－白線の間隔	管理基準値							
	1							
	2							
	3							
	4							
	平均値							
判定								

※①
受口と挿し口のすき間に薄板ゲージを挿し込み、全円周にわたりゴム輪が正しい位置にあることを確認すること。
（一般社団法人 日本ダクタイル鉄管協会が発行している接合要領書（以下「接合要領書」という。）の内容も確認すること。）

※②
管理基準値は、次の値を参考に設定する。
（注：メーカが示す製品寸法及び接合要領書の内容も必ず確認すること。）
最小値：80mm －（P寸法 －l1寸法）【⇒ y寸法が0mmの状態】
最大値：最小値+（別表イに示す値の上限値）【⇒ y寸法が別表イに示す値の上限値の状態】

＜参考模式図＞



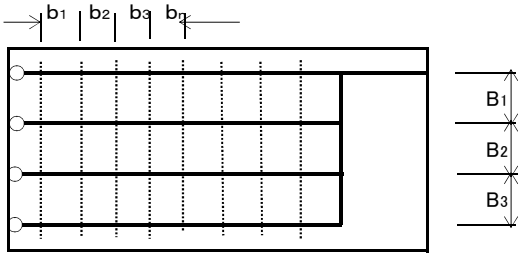
＜参考＞②受口端面－白線の間隔　管理基準値

呼び径 (mm)	P寸法 (mm)	l1寸法 (mm)	管理基準値 (mm)	
			最小値	最大値
75	84	80	76	87
100	87	80	73	84
150	88	85	77	88
200	105	100	75	85
250	114	110	76	86
300	115	110	75	91
350	130	125	75	91
400	130	125	75	91
450	130	125	75	91
500	135	130	75	95
600	140	135	75	95
700	155	150	75	95

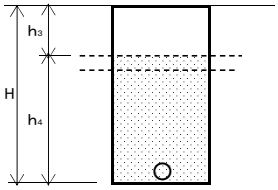
地区　工区　暗渠排水工出来形管理表

測定者　　印

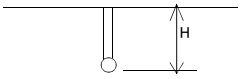
平面図



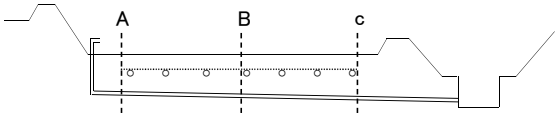
吸水管



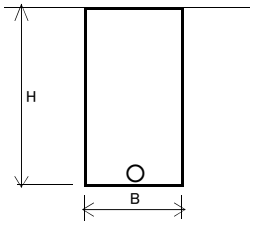
補助暗渠



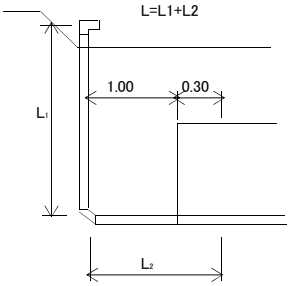
側面図



集排水管



通気管



排区番号								
面積								
全上累計								
吸水管	路線番号							
	形式（管径）							
	延長	設計値						
		実測値						
		差（＋－）						
	暗渠間隔 B cm	路線番号						
		設計値						
		実測値						
		差（＋－）						
	掘削深 H cm	A	設計値					
			実測値					
			差（＋－）					
		B	設計値					
			実測値					
			差（＋－）					
		C	設計値					
			実測値					
			差（＋－）					
	埋戻し厚 h_3 cm	A	設計値					
			実測値					
			差（＋－）					
		B	設計値					
			実測値					
			差（＋－）					
		C	設計値					
			実測値					
			差（＋－）					
	埋戻し厚 h_4 cm	A	設計値					
			実測値					
			差（＋－）					
		B	設計値					
			実測値					
			差（＋－）					
		C	設計値					
			実測値					
			差（＋－）					

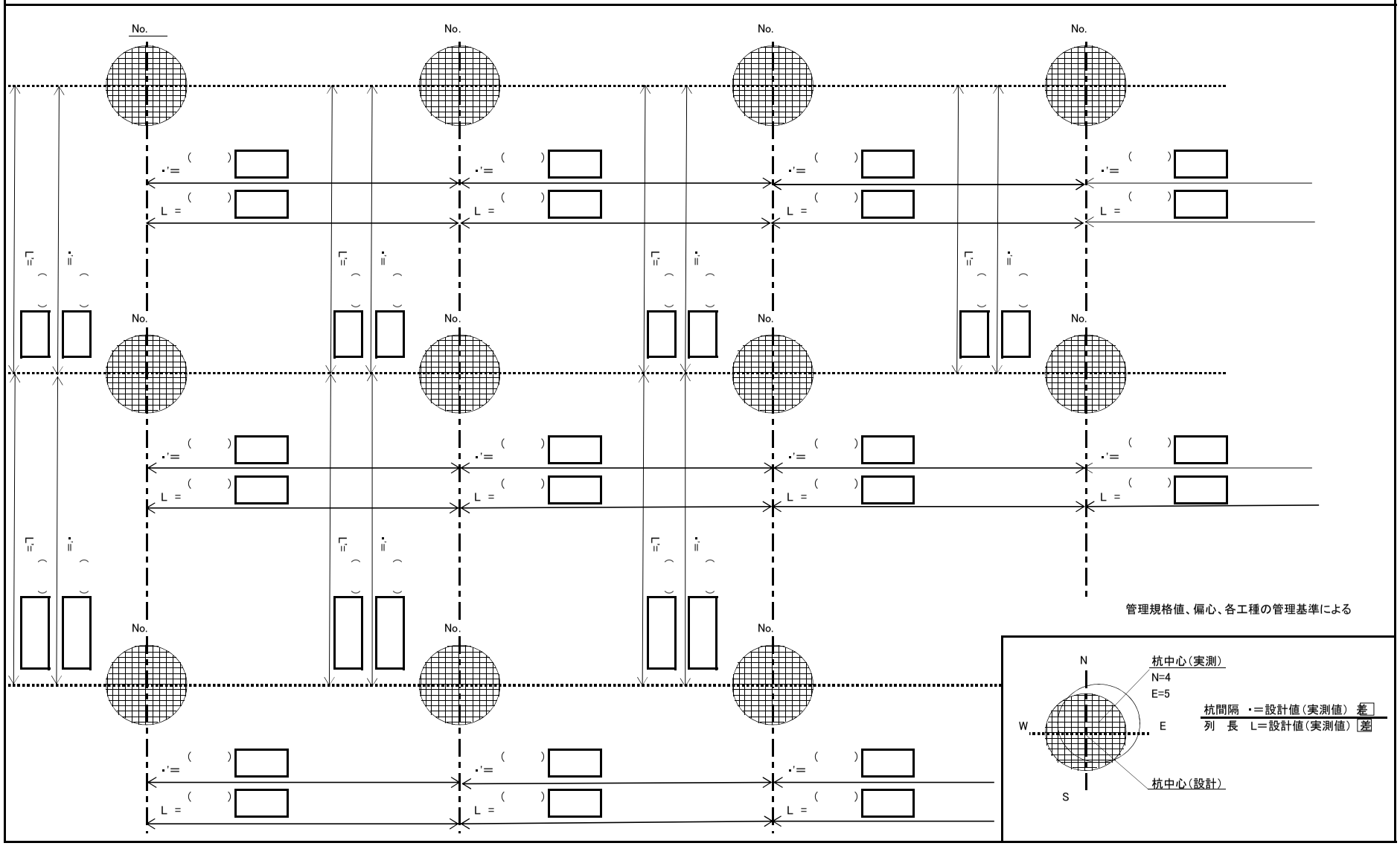
排区番号								
吸水管	掘削深 H cm	A	設計値					
			実測値					
			差（＋－）					
		B	設計値					
			実測値					
			差（＋－）					
		C	設計値					
			実測値					
			差（＋－）					
集水管	路線番号							
	形式（管径）							
	延長	設計値						
		実測値						
		差（＋－）						
	掘削深 H cm	設計値						
		実測値						
		差（＋－）						
排水管	路線番号							
	形式（管径）							
	延長	設計値						
		実測値						
		差（＋－）						
	掘削深 H cm	設計値						
		実測値						
		差（＋－）						
補助暗渠管	暗渠間隔 H cm	路線番号						
		設計値						
		実測値						
		差（＋－）						
	掘削深 H cm	設計値						
		実測値						
		差（＋－）						
通気管	管長 L cm	設計値						
		実測値						
		差（＋－）						

地区　　工区　　杭打工事偏心出来形管理図

測定者	

工事名

ブロック名



基 礎 打 込 成 績 表

事業　　地区　　工区　　測定者

杭　規　格　　ハンマー重量

打 込 危 機　　支持力公式

月日	杭番号	杭打順	杭径	設計杭長	杭天高	杭下高	杭基準高	杭実長	ハンマー落下高	最終貫入量(cm) S回貫入量	最終貫入量(cm) 平均貫入量	支持力 t (設計)	貫入量cm(×印) 支持力(・印)
			mm	m	m	m	m	m	m	回 cm	回 cm		

注1. 本表により難い場合は、別途協議の上変更されたい。
　2. ヤットコ打ちの場合は、支持力欄にヤットコ打換算支持力を( )で併記する。

杭 打 込 記 録 表

杭番号	No.	杭打機 名称		ラム落下高	m
外径又は高さ・幅	mm	形式		打撃エネルギー	t・m
長さ	m	全重量	t	打撃回数（毎分）	回/分
打込年月日	年　月　日	ラム重量	t	爆発による押圧力	
記録者氏名				クッション材	

貫入深さ（m）	50cm（10cm）ごとの打撃回数（回）	累加打撃回数（回）	50cm（10cm）ごとの平均貫入量（mm/biow）	リバウンド量（mm/biow）	ラム落下高（m）	摘要
						地盤高　m
						自重による貫入量　m
						（打込機の載荷による貫入量）　m

注1）貫入深さは、工事用基準面からの深さとする。
2）現地地盤高、自重による貫入量は、摘要欄に記入する。
3）打撃回数及び平均貫入量は、全長についてて50cmごとに、また打止まり付近は、10cmごとに記入する。
4）リバウンド量及びラム落下高は、打止まり付近について記録する。
5）打込み後の杭の傾斜、打込み時の以上は、摘要欄に記載する。
6）振動打込機または、圧入式杭打ち機を使用する場合の観測項目及び様式は、特記仕様書に定めによるものとする。

杭　出　来　形　管　理　表

工事名　　年　月　日　　測定者

断面形状　　打込機名称　　形式　　全重量　　ラム重量

杭番号	長さ（m）	打込年月日	杭頭天端高（m）	杭先端高（m）	杭の傾斜（度）	杭頭中心位置（mm）	備考

グラウト工測定結果一覧表

地区名		工区		測定者名	

孔番号	孔間距離				基準高				掘進長						グラウト長					注入量		備考
	規格値				規格値				規格値													
	月/日	設計値 A	実測値 B	C= B−A	月/日	設計値 A	実測値 B	C= B−A	月/日	設計値 G	ロッド長 H	残尺 I	施工長 J	K= J−G	月/日	設計値	実測値	内訳 盛土部	内訳 基礎部	セメント量 (kg)	フライアッシュ (kg)	

路面の平坦性試験表（標準偏差）

工事名		測定車線	
施工地名	市　町 郡　村	測定器の種類	
		測定年月日	年　月　日
請負者		測定者	・

標準偏差の計算

$$\bar{R} = \frac{R_1 + R_2 + R_3 \cdots\cdots R_n}{n}$$

$$\sigma = \frac{\bar{R}}{d_2}$$

d_2の値	
グループの大きさ	d_2
6	2.53
7	2.70
8	2.85
9	2.97
10	3.08

グループ名	範囲（R）	グループ名	範囲（R）	グループ名	範囲（R）	グループ名	範囲（R）	グループ名	範囲（R）

注）1．測定値を作成したのち本表で標準値を求める。
　　2．測定方法は、「アスファルト舗装要綱」による。

路　面　の　平　坦　性　試　験　表

工　事　名		測　定　車　線	
施工地名	市　町 郡　村	測定器の種類	
		測定年月日	年　月　日
請　負　者		測　定　者	・

No.	d	d^2	No.	d	d^2	No.	d	d^2	No.	d	d^2	No.	d	d^2
計	①	②	計	①	②	計	①	②	計	①	②	計	①	②
計	①	②	計	①	②	計	①	②	計	①	②	計	①	②

③	Σ①（mm）		⑥	各シートのΣ③(mm)	
④	Σ②（mm^2）		⑦	各シートのΣ④（mm^2）	
⑤	データ数		⑧	各シートのΣ⑤	

（備考）

標準偏差σ(mm)　＝　$\sqrt{(\Sigma d-(\Sigma d)^2/n)/(n-1)}$

＝　$\sqrt{(⑦-⑥^2/⑧)/(⑧-1)}$

プルーフローリング試験

工事名　　請負者名

工　種　　測　定　者　　・

項　　目					備　　考
試験区間	天　　候		測定面の含水状況	測定図の含水状況	
載　荷　車	No.		～No.		
載荷状況	形　　式		接　地　圧		
	予定載荷回数	回	本載荷速度	km/h	

試　　験　　結　　果	
視察展開図	No. ○ No. ○ No. ○ No. ○ No. ○ No. ○ No. ○ No. ○ No. No. ○ No. ○ No. ○ No. ○ No. ○ No. ○ No. ○ No. ○ No.
視察記事	
異常箇所の処置	

矢　板　出　来　形　管　理　表

工事名　　年　月　日　　測定者

断面形状　　打込機名称　　形式　　全重量　　ラム重量

矢板番号	長さ（m）	打込年月日	矢板天端高（m）	矢板先端高	矢板法線に対する出入り（mm）	矢板法線に対する傾斜（x10/1000）	矢板法線方向の傾斜（x 10/1000）	備考

矢板壁延長　計画　　m

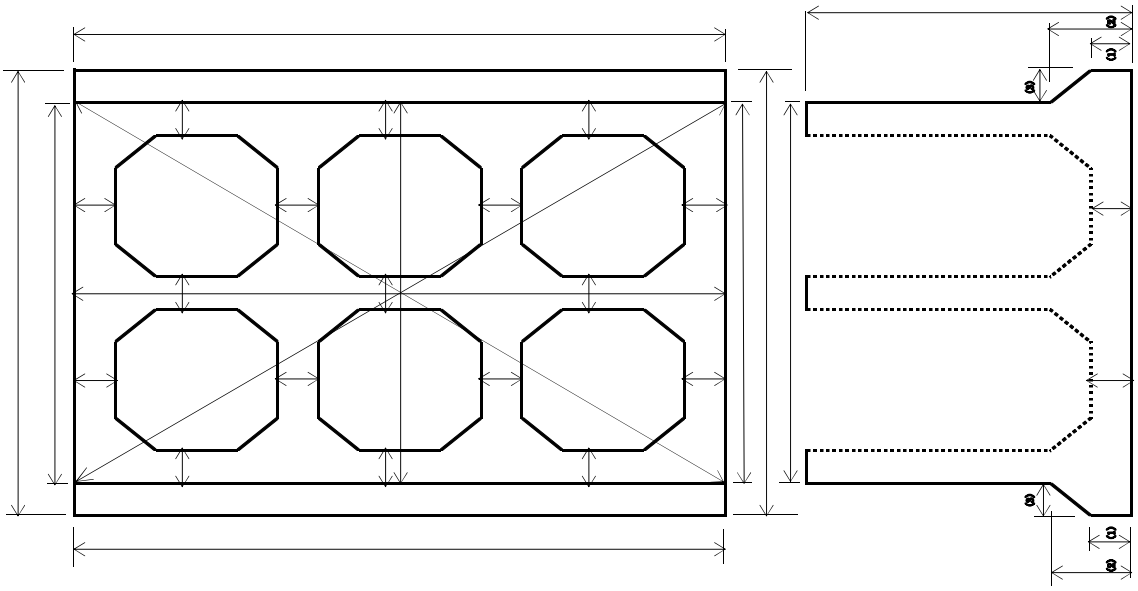
〃　実測　　m

ケーソン製作管理表

工　事　名

年　月　日　　現場代理人　　・

ケーソン製作測定位置



ケーソン出来形管理表

ケーソンNo.

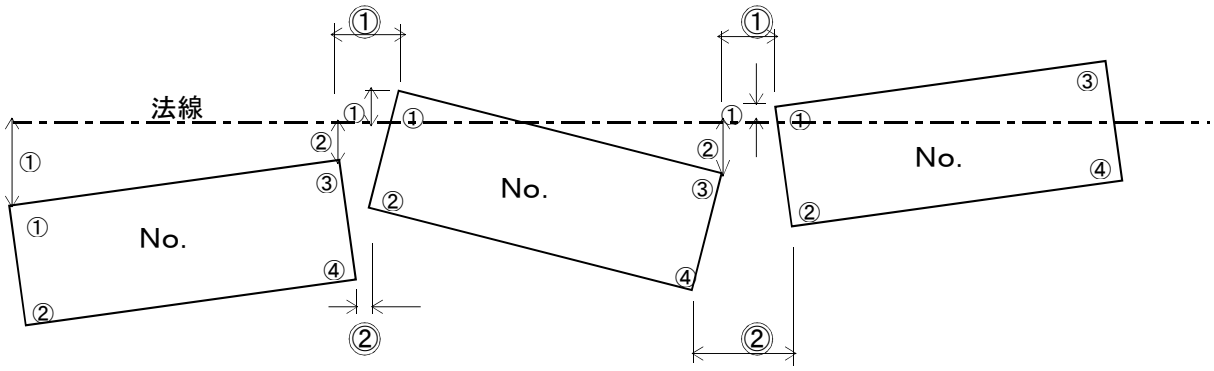
測定年月日		月　日	月　日	月　日	月　日	月　日	月　日	月　日
測定位置	設計値	底版	各層	各層	各層	各層	天端層
高　さ							4隅
幅		両端、中央	中央	中央	中央	中央	両端、中央
長　さ		〃	〃	〃	〃	〃	〃
壁　圧		―	（各壁）	（各壁）	（各壁）	（各壁）	（各壁）
			1箇所	2箇所	3箇所	4箇所	5箇所
底版厚さ		各室中央	―	―	―	―	―
フーチング高 (1)			―	―	―	―	―
フーチング高 (2)							
フーチング幅 (3)			―	―	―	―	―
対角線			―	―	―	―	―

ケーソン据付管理表

工事名

年　月　日　　現場代理人　　㊞

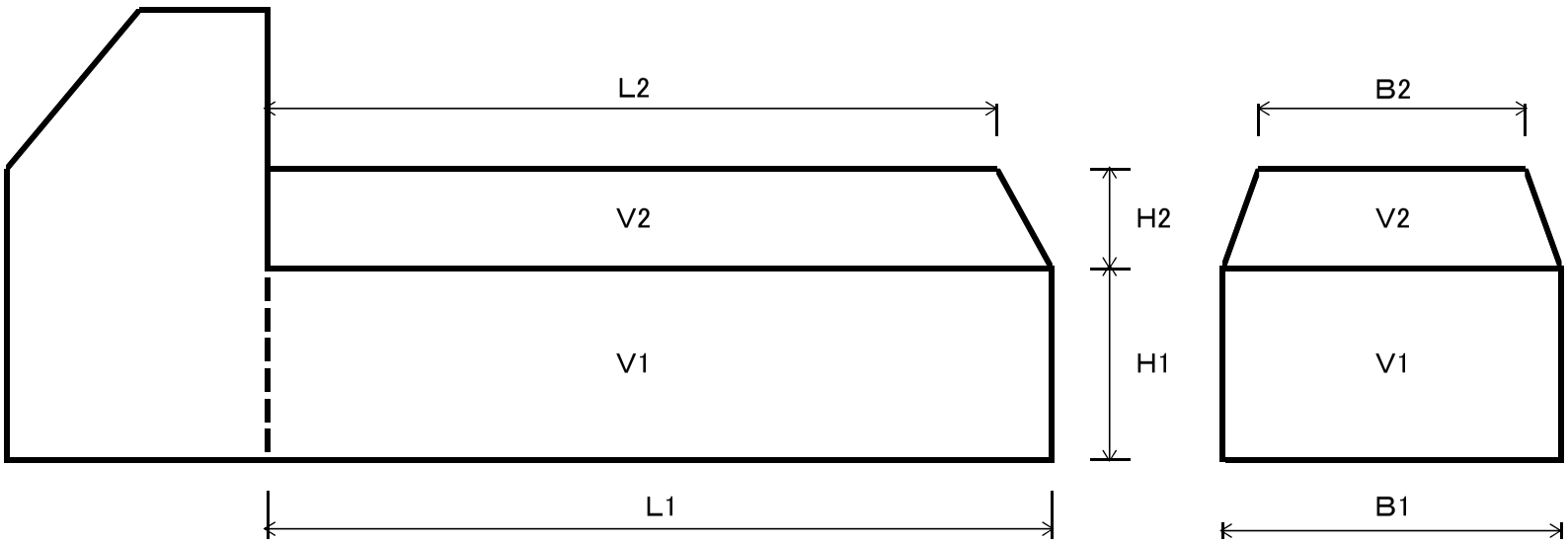
ケーソン据付測定位置



ケーソン据付出来高管理表

ケーソン番号	法線に対する出入			据付目地間隔			据付天端高さ		
	測定位置	測定値		測定位置	測定月日	測定値	測定位置	測定月日	測定値
No.1	①						①		
							②		
	②						③		
							④		
No.2	①			①			①		
							②		
	②			②			③		
							④		
No.3	①			①			①		
							②		
	②			②			③		
							④		
No.4	①			①			①		
							②		
	②			②			③		
							④		
No.5	①			①			①		
							②		
	②			②			③		
							④		

トラック積載検収要領



1. 容積の検定
V＝ V1＋V2
V1＝ L1×B1×H1
V2＝ 1/2(L1×B1＋L2×B2)×H2

2. 積載重量検定
自重計又は軽量測定器により積載重量を検定する。

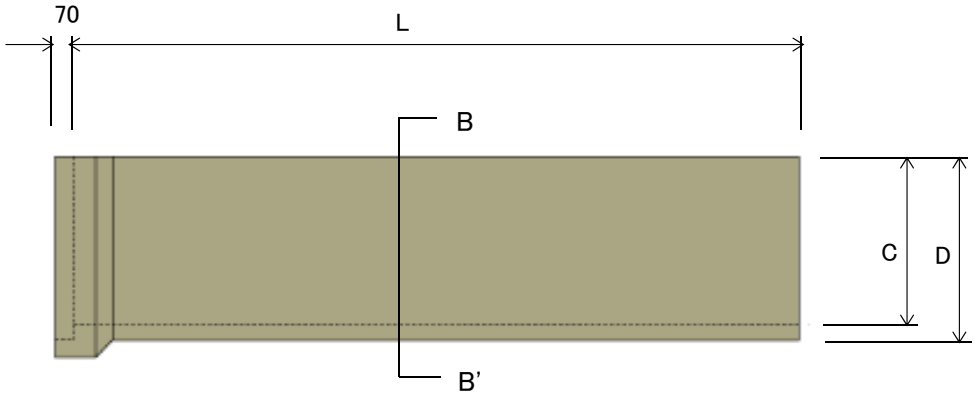
注1. 山土等のトラック投入量検収に当たっては、上記計算方式による。
各車両毎の積載量台帳を作成し、各材料毎に別紙材料検収簿で整理する。

注2. 搬入全車両の中から抽出して検収状況写真を添付する。

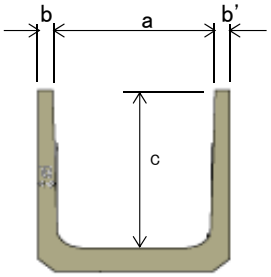
コンクリート二次製品搬入時検査表

製品名		測定者	

略図　　規格（　　）



B－B'



測定箇所		寸法（単位：mm）									搬入数量		測定月日
		a	b	b'	c	d				L			
設計寸法											日計	累計	
許容範囲											単位（本）		年　月　日
実測寸法	1回目												
	2回目												
	3回目												
	4回目												

品 質 管 理 総 括 表

工事名							測定者			
工種	種別	試　験　項　目	試験基準	測定回数		規格値	測　定　値			適　要
				計画	実施		最大値	最小値	平均値	

コンクリート（圧縮／曲げ）試験成果一覧表

工　事　名

請　負　者

測　定　者

種別	番号	製作年月日	荷下ろし地点スランプ	設計基準強度	1週強度					4週強度					養生方法 現場〔　〕標準	備考
					試験年月日	X1	X2	X3	$\overline{X}$	試験年月日	X1	X2	X3	$\overline{X}$		

注 本表は、コンクリート（圧縮／曲げ）強度試験成績表により転記する。

1週強度は、σ28換算値を上段( )に記載する。

備考欄には、強度の合否判定を記入　1回の試験結果は、購入者が指定した呼び強度の85%以上であること。

3回の試験結果の平均値は、購入者が指定した呼び強度以上であること。

コンクリート管理データシート

工事名	平成　年度　　事業　地区　工区			期間 自	平成　年　月　日
品質特性		コンクリート		期間 至	平成　年　月　日
測定単位	N/mm²	日標準量		請負者	
規格限界 上限値		試料 大きさ		現場代理人	
規格限界 下限値		試料 間隔		測定者	
設計基準強度		呼び強度		作成者	

月日	組の番号	測定値 a	測定値 b	測定値 c	計 Σ	1回の試験の平均値X	3回の試験の平均値$\overline{X}$	試験方法 (1)X≧呼び強度×0.85 (2)$\overline{X}$≧呼び強度 .

$\overline{X}$－R管理データシート（1）

名　　称		工　事　名	工事	期間	自　平成　年　月　日		
品質特性		出張所名			至　平成　年　月　日		
測定単位		日標準量		請負者			
規格限界 上限値		試料 大きさ		現場代理人			
規格限界 下限値		試料 間隔		測定者			
設計基準強度		作業機関名		作成者			

採取月日	試験番号	測定値 X_1	X_2	X_3	X_4	X_5	計 ΣX	平均値 $\overline{X}$	範囲 R			
	1									$\overline{\overline{X}} \pm A_2\overline{R}=$		
	2									$=$		
	3									$D_4\overline{R}=$		
	4									平均	$\overline{\overline{X}}=$	$\overline{R}=$
	5									累計		
	小計									小計		
	6									$\overline{\overline{X}} \pm A_2\overline{R}=$		
	7									$=$		
	8									$D_4\overline{R}=$		
	9									平均	$\overline{\overline{X}}=$	$\overline{R}=$
	10									累計		
	小計									小計		
	11									$\overline{\overline{X}} \pm A_2\overline{R}=$		
	12									$=$		
	13									$D_4\overline{R}=$		
	14											
	15											
	16											
	17											
	18											
	19									平均	$\overline{\overline{X}}=$	$\overline{R}=$
	20									累計		
	小計									小計		

記事	n	d_2	A_2	D_4
	2			
	3			

（注）1　品質特性、測定単位は別紙様式により記入する。
　　2　規格限界、設計基準は設計図書、仕様書に定められた値を記入する。
　　3　管理限界線の引き直しは5－5－10－20－20方式による
（備考）　――― 管理限界の計算のための予備データの区間
　　…… 上記の管理限界を適用する区間を示す
　　4　21組～40組までは、別に新しいデータシートに記入する。以下20組ごとに同様とする。

$\bar{X}$ － R 管 理 図

設計基準		工事名		事業 地区 工区	出張所名		
名称		目標基準			期間	自	平成 年 月 日
品質特性		規格限界	上限値			至	平成 年 月 日
測定単位			下限値		請負者		
測定方法		試料	大きさ		現場代理人		
作業機械名			間隔		測定者		

$\bar{X}$				
R				
番号				
記事				

X－Rs－Rm管理データシート(2)

名　　称		工　事　名		期間	自　平成　年　月　日		
品質特性		出張所名			至　平成　年　月　日		
測定単位		日標準量	・/日	請　負　者			
規格限界 上限値		試料 大きさ	回　試料	現場代理人			
規格限界 下限値		試料 間隔	日　回	測　定　者			
設計基準強度		作業機械名		作　成　者			

採取月日	試験番号	測定値 a	b	c	d	計 ΣX	代表値 X	移動範囲 Rs	測定値内の範囲Rm				
	1									$\bar{X}\pm E_2\bar{R}s$ =			
	2									$D_4\bar{R}_s$=			
	3									$D_4\bar{R}_m$=			
	4										X	Rs	Rm
	5									平均	$\bar{X}$=	$\bar{R}_s$=	$\bar{R}_m$=
	小計									累計			
	6									小計			
	7									$\bar{X}\pm E_2\bar{R}s$ =			
	8									=			
	小計									$D_4\bar{R}_s$=		$D_4\bar{R}_m$=	
	9									平均	$\bar{X}$=	$\bar{R}_s$=	$\bar{R}_m$=
	10									累計			
	11									小計			
	12									$\bar{X}\pm E_2\bar{R}s$ =			
	13									$D_4\bar{R}_s$=		$D_4\bar{R}_m$=	
	小計									平均	$\bar{X}$=	$\bar{R}_s$=	$\bar{R}_m$=
	14									累計			
	15									小計			
	16									$\bar{X}\pm E_2\bar{R}s$ =			
	17									=			
	18									$D_4\bar{R}_s$=		$D_4\bar{R}_m$=	
	19									平均	$\bar{X}$=	$\bar{R}_s$=	$\bar{R}_m$=
	20									累計			
	小計									小計			

記事	n	d_2	D_4	E_2
	2			
	3			

X－R_s－R_m管理図

呼び強度		工事名		事業　地区　工区		出張所名		
名称		目標基準				期間	自	平成　年　月　日
品質特性		規格限界	上限値				至	平成　年　月　日
測定単位			下限値			請負者		
測定方法		試料	大きさ	1回3試料		現場代理人		
作業機械名			間隔	1日1～2回(午前・午後)		測定者		

X					
R_s					
R_m					
番号					
記事					

コンクリート品質管理工程能力図

（スランプ、空気量）

工事名:　平成　　年度　　事業　　地区　　工区

試験番号																計	平均
試験日時																	
気温	最高																
	最低																
気温管理図	+30																
	+20																
	+10																
	0																
	−10																
測定値	SL																
	Air																
スランプ管理図	+3																
	+2																
	+1																
	cm																
	−1																
	−2																
	−3																
空気量管理図	+1.5																
	%																
	−1.5																
打設箇所																	

工 事 名 : 平成　　年度　　事業　　地区　　工区

塩　分　測　定　結　果　一　覧　表							測定者		
月・日	配合	測定場所	塩分濃度(%)				塩分量 (kg/・)	判定	備考
			1	2	3	平均			

No.

コンクリート中の塩分測定表

工　事　名

請負業者名

測 定 番 号

適　要

測　定　者　氏　名	印	測　定 番　号	測定値（%）又は測定器によっては空欄	塩　分　量 (kg/･)
立　会　者　氏　名	印			
測　定　年　月　日	平成　年　月　日	1		
工　種		2		
コンクリートの種類		3		
コンクリートの製造会社名		計		
セメントの種類		平均値 ＝ （測定値）		
測　定　器　名				

コンクリート配合表（kg/･）

セメント	水	細骨材	粗骨材	混和材（種類も記入）	水セメント比	細骨材率

備考：測定結果に対する処置を講じた事項を記載する。

注）塩分濃度を（%）で測定した場合は、次式で塩分量を求める。
　塩分量（kg/･）＝単位水量（kg/･）×測定値÷100

品　質　管　理　表

工　事　名 平成　年度　　　　　事業　　地区　　工区

工　　種　　　　　　　　　　　種　　別　　　　　　　　　　　測定者

(+)

設計値との差

(−)

設計値との差 C																															
実測値 B																															
設計値 A																															
測点 又は月日																															

注1　設計値との差欄には、基準値の上下限線を記載する。

品　質　管　理　工　程　能　力　図

工　事　名　平成　　年度　　事業　地区　　工区　　工　　種

請　負　者　　試験項目

測　定　者

試　験　月　日																	
測　定　値（　　）																	
設計値と測定値 と　の　差 単　位（　）																	

平成　年度　舗装工事品質管理総括表

路線名			
施工位置	市　町 郡　村		
工期	平成　年　月　日 ～ 平成　年　月　日		
工種			
延長	m	幅員	m
面積	㎡		
施工者			
試験者			

CBR 設計CBR	構造							適用
	表層	基層	上層	下層	砂利厚	計	しゃ断層	
	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	配合試験欄には必要事項を記入のこと。 品質管理試験中の写真を貼付のこと。

配合試験の結果（表層、基層、すべり止、瀝青安定処理等）

工種	種別	AS量（%）	安定度（kg）	密度（kg/m3）	フロー値（1/100cm）	空げき率（%）	飽和度（%）
表層							
基層							
すべり止							
瀝青安定処理							

修正CBR試験の結果

工種	材料	修正CBR	密度	OMC
下層				
〃				
〃				
上層				

下　　層　　路　　盤							
厚　　さ		測 点	最　乾 大　燥 密 度	現 場 密 度	率 %	路盤材料	
						P1	修　正 CBR
No.	cm	No.					

粒　度　調　整　路　盤									
厚　さ		測点	最大乾燥密度	現場密度	率 %	粒　度		路盤材料	
						mm	%	P1	修正 CBR
No.	cm	No.							

アスファルト安定処理路盤（加熱）														
合成粒度			温度管理			抽出試験				コアー採取			基準密度	基準密度に対するコアー密度の率
月日	mm	%	月日	混合温度	打設温度	月日	AS量	粒度 mm	粒度 %	測点	適要	密度		
	37.5							37.5		No.				%
	19							19						
	2.36							2.36						
	75μm							75μm						

アスファルト舗装（基層・表層）														
合成粒度			温度管理			抽出試験				コアー採取			基準密度	基準密度に対するコアー密度の率
月日	mm	%	月日	混合温度	打設温度	月日	AS量	粒度 mm	粒度 %	測点	厚さ	密度		
	19							19						%
	13.2							13.2						
	4.75							4.75						
	2.36							2.36						
	0.6							0.6						
	0.3							0.3						
	0.15							0.15						
	75μm							75μm						
	19							19						
	13.2							13.2						
	4.75							4.75						
	2.36							2.36						
	0.6							0.6						
	0.3							0.3						
	0.15							0.15						
	75μm							75μm						

セメント安定処理路盤													
厚さ		現場密度		配合試験	含水量		セメント量		合成粒度		コアー採取		路盤材料
					月日	%	月日	%	mm	%	適要	厚さ	P1
No.	cm	No.							37.5		No.		
									19				
									2.36				
									75μm				

セメントコンクリート舗装									
コアー採取		スランプ		圧縮強度		曲げ強度		セメント量	
厚さ		月　日	cm	月　日	kgf/cm²	月　日	kgf/cm²	月　日	%
No.	cm								

工 事 名　平成　年度　　事業　　地区　　工区

工事箇所

試験月日　　測 定 者

アスファルト混合物の温度

測　　点	初期転圧の温度	摘　要	測　　点	初期転圧の温度	摘　要
Σ ＝					
n ＝					
$\overline{X}$ ＝					

初　転　圧　温　度

工事名：

測点	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.
右側																
左側																
測点	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.	No.
右側																
左側																

採取コアー試験　総括表

平成　　年度　　事業　　地区　　工区

基準密度＝

測　　点	厚　さ　(cm)				(cm)	(t/･)	(%)
	X_1	X_2	X_3	X_4	平均厚	密度	締固め度

Max	cm	Max	%
Min	cm	Min	%

現場密度試験総括表

平成　　年度　　事業　　地区　　工区

rdmax　　(t/･)

測点	含水比(%)	乾燥密度(t/･)	締固め度(%)

Max　　cm　　Max　　%
Min　　cm　　Min　　%
X

現場密度試験結果表

含水比　　%	
締固め度	

レディーミクスコンクリート品質証明書

施　工　者		工 事 名	
製 品 の 呼 び 方		JIS の 区 分	01普通ｺﾝｸﾘｰﾄ・舗装ｺﾝｸﾘｰﾄ、02軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ、03高強度ｺﾝｸﾘｰﾄ

1. 設計規格

呼 び 強 度 SL		標 準 偏 差 σ	N/mm²	配 合 強 度 m (1)	N/mm²
ASR抑制対策	A・B （Bの場合の抑制対策:　　）				
塩化物含有量		工 場 規 格 値	kg/・以下		
そ　の　他	単位水量の上限値:　　kg/・以下				

注(1) 配合強度は、JIS A5308 4.1　a)の2式のうち、安全側を採用している。

2. 配合

配合表 (2)

粗骨材最大寸法MS (mm)	スランプ SL (cm)	水セメント比W/C (%)	空気量 Air (%)	粗骨材率S/a (%)	水 W (kg/・)	セメント C (kg/・)	細骨材率 S (kg/・)	粗骨材 G (kg/・)	混和剤 AD (kg/・)
	±		±						

注(2) 土木では示方配合、建築では計画調合という。

3. 製品検査結果

検査項目	1回目試験値 X_1	2回目試験値 X_2	3回目試験値 X_3	3回の平均値 $\bar{X}$	規格値及び許容差	合否判定
採 取 年 月 日					―	
強 度 (N/m m²) (3)					X_i:0.85S_L以上、$\bar{X}$:S_L以上	
ス ラ ン プ (cm) (4)					±2.5	
空　気　量　(%) (4)					±1.5	
塩化物含有量(kg/・) (4)					0.3以下	

注(3) 強度は、直近における検査データの少ない場合は1回で判定し、ロット判定ができる。
検査エータがある場合には、3回の平均値で判定する。

注(4) スランプ、空気量、塩化物含有量の判定は、直近における1回の試験値で判定する。

4. 管理実績

検査項目	n	$\bar{X}$	σ	期間・その他
強 度 (N/m m²) (6)				(　　～　　)
ス ラ ン プ (cm) (6)				(　　～　　)
空　気　量　(%) (6)				(　　～　　)
塩化物含有量(kg/・) (7)				(　　～　　)

注(5) n=20～25程度のX-Rs管理図、推移図又はヒストグラム等のデータ量で集計する。なお、データが少ない場合は3ヶ月程度でまとめる。以下、注(6)及び注(7)も同様に集計したもの
（ここに、n:資料数、X:平均値、σ:標準偏差）

注(6) 強度検査のヒストグラム又は複数のロット判定の管理記録を集計したもの。

注(7) スランプ、空気量、塩化物含有量の推移図又はヒストグラムなどの管理記録を集計したもの。

備考:

JIS A 5308　認定番号
会社名及び工場名
住所
報告年月日 （平成　　年　　月　　日）